京城日報

八日夕刊（朝夕刊併せて八頁）

發行所 京城太平町通一丁目 京城日報社

○獨兵誘惑檄文發見 獨軍大に反感を起す

獨軍の間にレーニン、トロツキー氏等の發せる「塹壕を出でよ內亂を起せ」との意味を記載せる獨逸文の獨逸兵士誘惑の檄文發見され多大の反感を起せり（哈爾賓電報）

○革命の爲めに戰はん

外相トロツキー氏は過激派政府を代表して曰く『獨墺にして波蘭、リスアニアの自由意思に對し同意を表せざるに於ては吾人は猛烈に露國革命の爲めに戰はざる可からず』と（哈爾賓電報）

○講和談判繼續中止發表

伯林會議の結果獨墺側は露國政府が講和談判地をストックホルムに移さんと提議せる爲め講和談判の繼續を中止する旨正式に發表せり（チューリッヒ電報）

□陸軍始觀兵式 王世子の小隊長振りに御目を留めさせらる

大元帥陛下軍國の兵を閲す八日の晨淡靄大內山の松ケ枝に搖曳する九時宮城二重橋外苑には近衞第一兩師團の整列和して入場所定の位置に著き劍光旭日に映ねて凛たり、十時陛下には嚠喨たる君ケ代吹奏裡に御愛馬豐島に召させられ閑院大將宮外各皇族殿下元帥大將以下扈從の諸員を從へさせられ仁田原諸兵指揮官の御前行にて閲兵の式を行はせ給ふ、仰ぎ奉れば陛下には大元帥の御正裝に大勳位菊花章頸飾金鵄勳章功一級大綬御佩用御英姿颯爽として御氣色麗はしく拜し奉るも畏こく殊に李王世子垠殿下が近衞步兵第二聯隊の小隊長として堵列せる御姿に御目を留めさせられたるぞ辱出度き、軈て閲兵終らせられ玉座の前に馬首を立てさせらるれば軍樂吹奏裡に步砲騎の諸隊順次に分列式を行ふ終れば陛下には諸員最敬禮の裡に還幸斯くて十一時四十分陸軍觀兵式を終らせられたり（東京特電）

○ト外相プ市へ出發

外相トロツキー氏は露國講和委員同伴七日夜ブレストリトウスクに向け出發せり（露都電報）

○佛芬蘭獨立承認

佛國政府は正式に且つ事實上に於て芬蘭共和國の獨立を承認せり此の決定は佛國に於ける擧國一致の感情と一致し同時に一箇月前ヘルシングフオール政府より佛國に致されたる要請とも一致す佛國民は芬蘭人に對し多大の同情を有し居れり（巴里電報）

○イ市過激派全敗

イルクーツク市の過激派全敗し市中は再び穩和派の手に歸したり（哈爾賓電報）

○無政府主義者勢盛ん

露都に於ける無政府主義者は其の勢益々盛んとなり過激派の衰へたるに乘じ惡辣の方法にて其の勢力伸暢に努めつゝあり（露都電報）

○議員過激派衝突

莫斯科にて市會議員、學生、商人等と過激派との間に衝突起り同時に一大示威的運動は過激派に對して行はれたり（露都電報）

○平和妥協困難か

上海歸客の談に依れば現政局の解決に關し南方派の意嚮未だ定まらざるも大總平和に妥協すべしとは考へ居らず必らず一戰ある可しと推し居れり（北京特電）

◉政務總監發期

政府委員として帝國議會に列席の爲め東上の筈なる山縣政務總監の出發期は多分本月二十日過ぎなるべしと

◉府令二件發布

地方費賦課金收納郵便振替貯金特別取扱規則改正の件並に地方費徵收規則制定及び地方費賦課金徵收規則中改正の件は九日朝鮮總督府官報を以て發布十五日より實施さるべし

◉定例長官會議

八日午前十時より總督府第一會議室に於て大正七年に於ける第一回の定例長官會議を開き山縣政務總監以下各部局長官及び官署長參事官谷川總督臨席の上諸般の政務に就き協議を遂げ正午散會せり

歐洲動亂と警察の將來（上）

警官練習所長警視 松井信助氏談

有史以來の大亂たる歐洲戰爭の軍事上政治上産業上思想上其の他有ゆる方面に直接又は間接に及ぼし若くは及ぼさんとしつゝある影響如何は識者間に夙に認められ又豫想研究せられつゝある所なるが更に平和克復の曉に於て各交戰國の內部より一切が暴露せらるゝに至らば更に驚異すべきものあるべきを想像するに難からず然り如斯今次の動亂は有形無形に各方面に直接一大革命を惹起せんとす此の秋に當り社會を對象とする警察行政亦其の影響を受くべきは當然にして之に關する攻究は頗る興味ある問題たるのみならず又必須の事項たるを疑はず今警察上より觀たる二三の事項に付所見を述ぶべし

▲日清の戰果は 國民に尚武の氣風を鼓舞せしめ日露の戰果は國民をして世界的自覺心を著しく喚起せしめたり然らば今次歐洲動亂の及ぼし若くは及ぼさんとする所のもの果して奈何其の政治思想上等に及ぼせる影響は暫く措き風敎上に於ける影響に就て之を觀るに今次の動亂は吾經濟界をして古今未曾有の好調を齎らし各種の假富豪雨後の筍の如く簇出し其の贅澤や水平線上を超越すること數千里景勝の地は到る所是等の宏壯なる別墅を以て埋められ或は一夕の宴一人前の料理に數十金を投じて惜まず一日の遊興數百金を投じて得々たる等黃金萬能の本領を遺憾なく發揮し社會誘望の的となり官吏たると學者たると敎育家たるとを問はず馳せて其の膝下に參じ餘瀝に霑はむことを企てたる者續出せり世の識者先覺者を以て任ぜし人に於て既に然り況や誇大妄想を逞ふする青年者流の憧憬に至つては蓋し思半に過ぐるものあらむ固より之等の人の經濟界に對し貢獻しつゝある功績は何人も之を首肯する所にして邦家の爲め喜ぶべき現象なるは吾人亦之を認むるに吝なるものに非らず然れども其反面に於て世道風敎を廢頹せしめつゝある一事に至つては吾人の頗る遺憾に堪へざる所なり今や權利觀念に對する社會思潮は將に一變革を來さむとするの傾向あり例へば財産權の行使の如きも妄りに自己の慾望の滿足のみに行使するを許さず國家社會の爲最も有利に行使せざるべからざるは財産權者の義務なりとの觀念漸く喚起せられむとするが如きは國家社會の爲慶祝に堪へざる所大に富豪の覺醒を促さざるを得ざるなり

▲惟に黃金萬能 主義の濫用は人をして輕浮ならしめ僥倖心を誘致し徒に權謀術數を弄するの弊風を助長せしめ勤儉力行の美風を破壞し延て刑辟に觸るゝ徒輩を頻出せしむるの遠因たらしむ若し其れ一介の人足にして一日尚數金を獲得するが如き者にして一朝平和克復と共に勞銀の低下と需要の減退とを見るに至らむか驕奢の生活に慣らされたる彼等の膨脹せる生活を遽かに縮少せしむるは頗る難事たらざるやを憂ふと共に延て警察事項增加の因を爲さずんば幸なり要するに經濟界好調の國民思想上に及ぼし若くは及ぼさむとする影響の延いて如何に警察上に波及するかは吾人警察官の最も留意研究し相當方法を講ずべき問題なり

▲今回の戰爭は 或は意味に於て科學の戰爭なり彼の獨逸が世界の强國を相手として今尚攻勢を持しつゝある所以のものは固より國民元氣の然らしむる所なるべきも亦科學の進步列强に一日の長あるが爲に外ならず而して今や從來空想視せられたる幾多の事柄も實現せられたるもの枚擧に遑なからしめ殊に化學上の發達に至つては吾人をして驚歎に堪ざらしむるものあり之等の進步せる化學は戰後は主として實用に應用せらるべきは勿論にして之等の物自體に因り生ずる危害若くは之等の物を使用し又は之等の物を應用して犯罪行爲を敢行する不逞の徒の發生亦想像するに難からざる所にして大に吾人の攻究を要する問題也

朝鮮 事業界と事業金融 注目すべき新事業の勃興

朝鮮銀行理事 三島太郎氏談（下）

▲事業金融 朝鮮に於ける事業界の將來が多望な事は前述した通りであるが、乃で考へねばならぬのは今日事業を隆盛ならしむるに缺く可からざる資金を如何にして供給するかと云ふ事である、之れは獨り朝鮮財界にとり頗る興味あり又必要の問題である、獨逸が今日の如き工業の隆盛を來したのは獨逸の銀行が其の絶大の資力により事業會社の社債券を引受け若くば株式の引受けをやり其の活動伸張を直接に援助したのが與つて大に力がある、今後朝鮮の事業を盛んにするには朝鮮の事業資金を便利に又盛んに供給するの方法を講ぜねばならぬ

▲工資と商資 唯工業資金と商業資金とは異なり其の融通上困難の點が少なくない、乃ち商業資金は短期の間に循環し數箇月にして回收し得るに反し事業資金の放資は長期に亙る、又放資するに先立ち事業の成敗を豫見する事も出來ない、然るに事業資金の放資は一旦固定し、又其の事業の成功するのであるか何ちらか分らない、不成功に終るのであるか何ちらか分らない、否に良否を見離いのみならず、事業機關の經營を困難にして一般に顯はれる色々の事變は往々入らする事もある、さう云ふ商品であれば擔保流れ込みとなつても其處分に多くの困難を見た事業に對する金融とい のだが、伸々さう容易に行かぬ、然し銀行は其の事業の脊負ひ込みをやらねばならぬかも知れぬ、又常に其の覺悟を要するのである、獨り銀行の如き一時經營困難に陷つた主な原因は其の援助せし事業會社の背負込みであつたらしい、事業金融をやらうとする機關は此點に熟慮を重ねばならぬ

▲現在の機關 現在朝鮮に於ける事業金融の機關は東洋拓殖會社金融部並に六つの農工銀行に限られ必らずしも十分と云へぬが、兩者共に今後大に面目を革めんとし、又朝鮮銀行も事業金融方面に對する心算で漸く整備の形である、以下少しく各機關に對する管見を述べやう

▲東拓金融部 東拓は資金拂込額十倍までの債券發行力を有しそれによりて長期の資金を得るので長期の事業に融通をなし得るのであるが客年十月一日から會社內部の組織並に營業範圍の擴大を見る事となり廣く滿洲方面にも又南洋方面にも追つては手を擴げるやうであるが、然し要するに朝鮮に於ては一層鮮明にもあるやうに社會として滿鮮事業界の發展を其の要務として努力で圖つて欲しいと思ふ

▲殖産銀行 現在の各農工銀行は既に總督府大正七年度豫算に現はれてゐるやうに本年中に併合され新に殖産銀行の新設を見、而して殖産資金の融通に努めると云ふ、之れは實に喜ぶべき事であるが、現在の如く農工銀行が小さく分れてゐては其の活動上幾多の不便と不利を伴ふのである、內地にさへ農銀併合論あり、朝鮮の如く地方經濟の狀態が幼稚で金融の緩急を絶えず見るやうでは農銀が各個に分立してゐるのは甚だ面白くない、どうしても集團して有力のものとなし鮮內の殖産に積極的方針を執つて欲しい、それには有力な人材を銀行に入れねばならぬ、有力な人を多數各地に散らすと云ふ事は困難である、更に合併すれば經營上にも利益が多い、假へば檢査機關の如きにしても一つで足りるのである、要するに斯くして政府の方針に副ひ業務を進めて行けば鮮內事業界の享くる利益は少なくなからう

▲朝鮮銀行 鮮銀の信託業務開始は法律上で云ふと尚ほ確定せぬ問題である、唯今期の議會に總督府から提出されるらしい鮮銀法の改正が通過し其の公布實施を見るやうになれば、社債を引受け若くは長期低利資金の供給をなす事となるかも知れぬ、少なくも自行で直接行らねでも援助し周旋し事業計畫の進行を促進せしむる事となるかも知れぬ、之等は自分の銀行の事で自分が吹聽するのは變だから詳言せぬが、要するに相當事業界の發展には貢獻したい考へである、又時勢は其の必要を促して來ると思ふ

▲面目を革めん 兎に角朝鮮の事業界は漸く工業の芽を吹き今後其の盛を致す機運に向ひつゝあるのは疑ひなく而して事業金融の機關も大に整備せんとしつゝあるから將來必らず面目を革めて來ると思ふ

東京より 講和交渉

○客臘露西亞及び獨墺兩國代表者プレストリトウスクに會合して、講和談判を開始するや、露國側は非併合、非賠償の基礎の下に講和條約を取結ぶことを提議し、獨墺委員は之を容れ、更に露西亞の全同盟國亦此基礎の下に一般的講和を爲さむことを要求したり、兩代表者が其會議を中止したるは、則ち露國をして、普く協商諸國を說かしむるの時間を要する爲めなりと稱す。

○獨逸は露西亞の過激派政府を相手に眞面目に講和條約を取結ばむとするものなりや否や疑問なり、併しながら獨逸政治家の今日の政略は、平和回復の提議に依りて、協商諸國民の心情を攪擾するにあり、其の非併合、非賠償の原則を取り及び『領土征服の唯一目的を以て戰爭を繼續することを否議す』と稱するが如きは、故らに北米合衆國政府の言ふところに迎合せむとするものに外ならずして、獨逸の求むる所は、戰爭繼續の全責任を協商國政府に嫁するにあり、夫れ非併合、非賠償と曰ひ、領土征服の爲めの戰爭繼續を否議すと曰ふ獨逸にして、此言を爲すは、宛も是れ鬼の念佛たるに過ぎざれども彼今や既に疲困の極に達す、其の戰爭を繼續するを欲せざるや論なく、彼亦領土併合の行はるべからざるを知る、他國に對して賠償の義務なきを得るは彼の最も倖ふところなり、併しながら此の如きは協商國の斷じて許す能はざる所なり、獨逸は永久局外中立地たる白耳義の國土を蹂躪し、其人を殺し、其財を奪ひ、横暴殘虐至らざる所なし、而して猶ほ非賠償を呼號して以て其の責を免がれむとす、且つ今日の戰局より云はゞ、獨墺は佛蘭西伊太利羅馬尼其他各地に侵入し居れども、若し獨墺の實力盡きて復た戰爭を繼續する能はざるの故を以て、和を講ずると云はゞ、此等侵入に依りて生ずるところの損害は、悉く是れ獨墺の負擔ならざるべからず、獨逸政治家の非賠償の說を喜ぶ、亦決して其故なしとせざるなり。

○併しながら協商國は、獨逸の軍國主義を拔本的に破壞し去ることを以て、其共同一致の目的と爲し、北米合衆國政府は『獨逸の政權カイゼル』に存する限りは、これと外交上の交渉を爲さずと稱す、今乃ち獨逸帝の政府にして、講和を提議し、平和回復の條件を表明するとも世間復此に心を動かすものはあるべからず、質を云はゞ協商國間には千九百十四年八月倫敦盟約なるものあり、單獨和を講ぜざることを誓約す、露西亞は即ち此盟約の主動者なるを以て、協商國は露國に對して其背信を責むべき理由あるや勿論なれども、今日の露西亞の爲體にては、其の起つて戰ふことを促がすも、戰鬪能力を有せざるを如何せむ、協商諸國は彼が露西亞と休戰條約を締結するを默過す、休戰に引續いて講和談判を行ふは、蓋し自然の數なるべしと雖も、其は露西亞だけの事にして、他人は與からず、且今日の協商國及び日本北米合衆國は、露西亞の指導の下に和戰を決するの謂れなきや、三尺の兒童も能く知るところなり。

◉世子出迎一行

既報の如く李王世子殿下は來る十三日午後九時南大門驛著列車にて御入京の豫定なるを以て李王職より昌德宮御使として武官李秉武子爵、贊侍金春熙男爵及び事務官武藤文吾、趙東源、李恒彬氏外屬官以下數名釜山まで御出迎の爲め來る十二日朝南大門發列車にて同地に向ふべく尤も以上の諸氏中準備の都合上十一日夜行列車にて釜山に向ふ者もある由因に京管局にては特に十三日午前十時三十分釜山發の列車に殿下の御召用車として貴賓車及び一二等混合車を連結すべしと

◉外國爲替會議 鮮銀主要店長の召集

朝鮮銀行にては來る十四日より約一週間の豫定を以て左記各店長を召集し外國爲替會議を開く事となり目下本店にて諸種の準備を進めつゝあり

東京支店長 佐藤得四郎
大阪支店長 掛井生治
神戶出張所長 宮崎議平
大連支店長 橋本萬治郎
青島支店長 片桐鶴太郎
哈爾賓支店長 木原小平
上海出張員 高橋武夫

而して衛藤米國より歸朝せし前東京支店長吉田節太郎氏近く論敦に出張の噂ある前哈爾賓支店長阿部讓諸氏も亦列席すべく本店よりは美濃部總裁三島理事中村井內阿部三局長其他列席の筈なり

◉新春の金融界

新春に於ける市中金融界の狀況を聞くに各銀行共著陸の決濟資金急需により貸出したる資金は越年と共に少なからず回收されしため何れも手許遊金は頗る潤澤となり一方商業界は尚ほ活動期に入り居らざるため金融は大勢緩漫の狀態にあり從つて鮮銀券の發行高も漸次縮少し來るべしと

◉內地行滯貨 鐵道は三萬四千噸

滿鐵京城管理局線內各驛に於ける內地行貨物の停滯數量は客歲十一月中旬申込のものを最古として一月三日迄のもの二萬九千五百六十一噸にして內本州行二萬四千六百九十噸九州行四千九百五十四噸なるが此の外釜山棧橋滯貨本州行一千九百五十四噸九州行九百六十噸合計二千九百十四噸及び各線內輸送中のもの一千五百二十二噸總計本州行二萬七千六百三十七噸九州行六千三百六十噸なり今之れを客臘廿三日の現在滯貨數量三萬五千六十九噸に比すれば若干の減退を示せり

◉新春の銀行券

客年十二月三十一日より一月五日に至る鮮銀券の發行平均高は六千七百五十六萬二千二百圓にして正貨準備二千九百三十二萬五千四百八圓保證準備發行平均高三千八百二十三萬六千七百十二圓なり

◉愛婦の水兵歡迎

愛國婦人會朝鮮本部にては七、八兩日仁川碇泊中の練習艦隊乘組水兵一千餘名の入京に際し歡迎の意を表する爲め例に依り京城驛前に接待所を設け事務員出張し各茶菓を饗して款待せり

◉鈴木司令官招宴

仁川港碇泊中の練習艦隊司令官鈴木中將は八日午後四時より仁川府尹以下主なる者十數名を旗艦磐手に招待したり

◉森中佐講演

七日朝入京したる練習艦隊參謀森海軍中佐は神田秘書官の案內にて京城高等普通學校を參觀したるが其際同校職員生徒の爲めに一場の講演を爲し歐洲戰亂より說起して帝國の位置及び國民の協力を詳述し將來大に內外人一致協同以て世界に雄飛せざるべからざる旨を論じ聽者に多大の感動を與へたり

◉大塚參事官東上期

來る議會に於ける政府委員を仰付けられたる總督府參事官大塚常三郎氏は十五六日頃出發東上すべし

人事消息

▲鈴木貞太郎中將一行 八日午前十一時十分發列車にて仁川へ
▲津村甚之助氏（朝鮮銀行平壤支店長） 入京不知火旅館へ
▲鳥居忠恕氏（警務總監部通譯官） 西伯利方面に出張中なりしが三日歸任
▲不破重綱氏（總督府事務官） 蓄膿あり靜養の爲め九日朝京城出發溫泉に赴く筈
▲ミラー氏（米國總領事） 七日夜東京より歸京
▲李根澔子 七日水原へ
▲坂出技師 七日夜內地へ
▲柴崎鐵吉氏（京城中學校長） 同上
▲岡元輔氏（京城高等普通學校長） 同上
▲東岡正氏（東方時論社） 昨日入京山本へ

□鐵原驛より 插縣九州山人

山も河も白皚々天地淸淨の間を過ぎ爽快無限左の二首御笑吟を乞ふ

劍十年一夢過、江湖落拓奈吾何、蒼華如水將老、風雪蕭々感慨多。
微官府藤役朔身、每逢佳辰客意新、遙想家山椒酒席、天涯猶剖未歸人。

□元山より

更らに元山より一篇得貴意候歲を犯して咸南の田舍巡りを致し漸く元山に落付き申候途中の拙吟左に

起伏遠山眼界寬、凍雲一抹夕陽殘、鐵蹄蹴雪三十里、滿野朔風吹面寒。
征衣匆々又新年、把酒曾盟共在然、如渉絲駅慎彳翁、葛麻浦上過佳人。

南洋セレベス島の 椰子樹の蔭より

大谷光瑞師の部下として活動＝赤道直下貿易風に吹かれつゝ＝護謨の栽培に一大刺戟

メナドにて　藤邊椰陰生

予は今や大谷光瑞猊下の下に當メナドに働らきつゝあり、昨冬京城の地を辭してより既に一周年、椰子樹風に戰ぐ赤道直下に起ちて遙かに朝鮮の正月に想到する時、また多少の感慨なき能はず、聊か南洋の風物を記して以て北鮮讀者の一粲に供せむとす、世人往々南洋の地を以て野獸瘴癘の地と爲すが如し、南洋は地、赤道直下に位するを以て

▽到る所吾等溫帶國民の生活に堪ふべき地に非らずと思惟するが如し、然れども足一度南洋の地を踏みたる者にとりては右の假想が全く杞憂に過ぎざりしを了解するに至るべし、記録の示すところ、予等の親しく經驗せるところによれば世人は餘に南洋の風土に怖れつゝあるを思はずんばあらず、南洋の地もとより暑氣激しからざるに非ずと雖しかも相當の注意を怠らざれば健康上何等の支障を見るが如き事なし、また四時常夏の狀態は多少の厭嫌を感じ日中の酷熱には多少の苦痛を思はしむと雖も天はわれ等に一活路を賦與し殆んど日々なく乃至隔日宛の沛然たる驟雨あり驟雨一過忽ちにして爽然たる

▽椰子樹の影に微風起れば身心爽快、南洋に擬すべきものあり溫度の如き元より緯度の高低位置の關係によつて一樣ならずと雖も海濱の地にありては八十度内外を普通とし朝鮮及び滿洲地方の夏期に比して甚だしき徑庭なし、時に最高九十度を示す事あるもそは稀にみるの現象にして、假令暑熱の日と雖も頻々たる驟雨はよく緩和し酷熱の苦痛を忘れしむるに充分なり、また、毎年十一月より翌年の三月頃に至る東北貿易風の時期に於ては大氣濕潤、比較的降雨を見ること頻りなるを以て名づけて此の地方の雨期と稱しその殘餘を旱期と稱す、然れども南洋の降雨は日本並に朝鮮地方に於ける霖雨の如きものに非ず

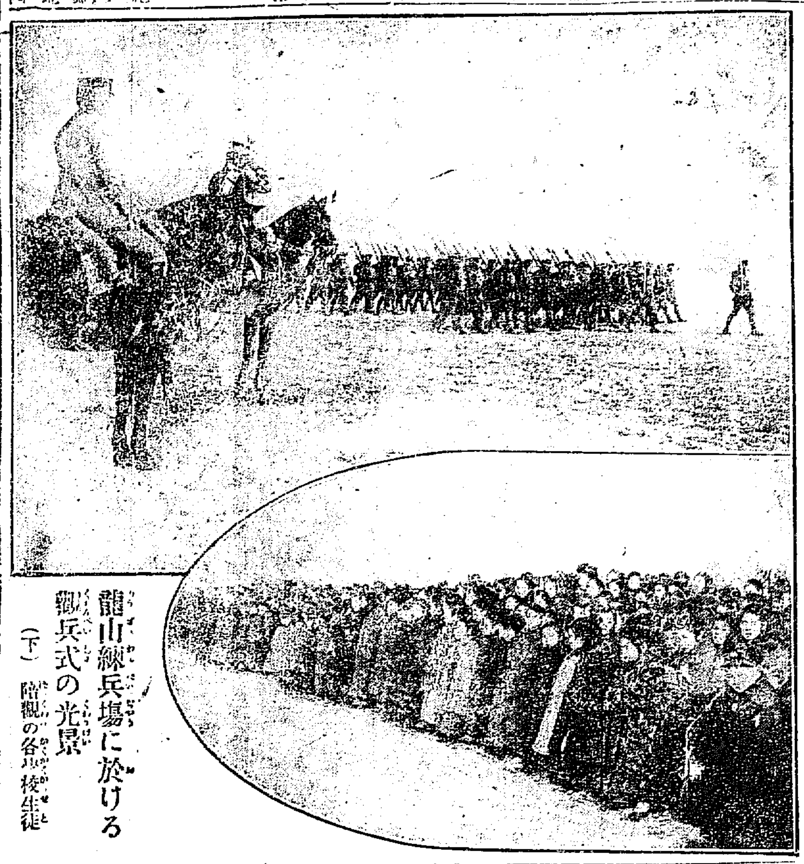
▽概ね短時間なる驟雨を以て歇み近日に渡りて陰鬱なる天候は絶えてこれなし、要するに南洋の氣候風土は何ら熱帶區域に在りと雖も極めて凌ぎ易し、蓋し全體の地形殆んど島嶼なる島嶼より成り四面悉く海に接せるを以て氣候の調節行はるゝが爲ならむ、猶つてわれ等溫帶國民に不適當の地とは云ふ可らず、これを北鮮及び滿洲に於ける凜烈たる嚴冬に比すれば寧ろ南洋の暑熱を以て優れりとすべし、氣候既に上陸の如し、苟も南洋企業に志あるものは大に來りて以て此未發の天地に着目し寶庫の鍵を握るべきなり。京城出發以來の予等は圓頂緇衣の身を以て暫く星坡の護謨園に在りき。地は

▽大谷光瑞猊下經營の護謨栽培

探汁・製法の事業場なり、予も亦親しく此の事業に就いて經驗するところありたり、知らるゝ如く護謨の事業は數年來の著しき大流行にして南洋と言へば直ちに護謨を聯想せしむる如き趨勢となれり由して近年に至り其の發展も愈よ著しく栽培區域の如きも馬來半島首め瓜哇、スマトラ、ボルネオ、比律賓群島等の廣汎なる地域に亘り就中最も盛況を呈せるは馬來半島にして現下の栽培結了反別七十萬坪を降らず、これが從業者は邦人その大部分を占め殊に南部ジヨホール洲を最として著々發展しつゝあり、然れども邦人の企業もこれを外國人の大計畫に比すれば到底月日の談に非ず

▽今一層の奮發を要する次第也

近時自動車の發明は護謨の栽培に一大刺戟を與へ野生護謨の供給は到底世界の需要に伴はざるの趨勢なると共に世界の市價はいよいよ騰まり西暦一九一〇年の天井相場に於ては十五割の配當率ありし護謨會社もありたりと云ふ、現今は七八年前の如き市價を示さずと雖も一等護謨（一拇十六貫匁）六片百五十磅を上下しつゝあり、其の利の正確にして莫大なる他の事業の及ばざるところなり、但し獨逸に於ける人造護謨の發明は一時世人を驚愕せしめしと雖も其の製品は頗る困難の由にて今以て滿足なる結果を得ざるが如し。歐洲大戰局後に至りてこれが研究の行はるゝは明白にして萬一これが完成を見むか其の護謨工業に與ふる影響鮮からざらむも彼の人造絹絲が人造樟腦と同一運命に陷るなきか頗る疑問とすべし（つゞく）



龍山練兵場に於ける觀兵式の光景（下）陪觀の各學校生徒

鐵騎輕し 雪を蹴つて

龍山練兵場頭に於ける觀兵式

翠濃き南山の巓から朝暾パッと輝やけば龍山練兵場頭皚々たる白雪は一時に白銀と閃めいて眼も眩む、零下二十度五と言ふ

◎◎烈寒を冒して

整列したる歩兵第七十八聯隊同七十九聯隊及び騎兵隊は場の西端野砲、騎兵の諸兵は南隅に轡を並べ定刻遲しと待つ程に陪觀者、階臨は古海總務總長、高橋武官を始め金色の飾緒眞紅の帽影、燦然たる各官當官及び朝鮮將官參集し滿場街の南山麓を背景にして

◎◎宛然一幅の繪

を展べたやう。俄然場の一方に喇叭の音響けば松川軍司令官は幕僚を率ゐて臨場、駒の足掻を左に打たせ歩騎砲の順序にて檢閲を終り、指揮刀一閃すれば駒も躍る行進曲抱り歩兵先づ聯隊旗を先登に雪を踏んで進めば朝鮮歩兵之に續き砲車の響きも勇ましい砲兵過ぐれば蹄音戛々雪を亂して騎兵續く勇壯なんと譬へんに物無く

◎◎約一時間の後

分列式を終つたが從來は一個聯隊に過ぎざりしもの今次は第七十九聯隊の參加があつたため非常に盛觀を極めた

李王妃殿下 各貴族御招待

李王妃殿下には八日午後零時三十分より仁政殿東行閣に御親戚貴族及び李王職員の夫人等を招待され午餐を催ふされたり

東海道線も列車立往生

東海道線米原大垣間は七日來の降雪五尺以上に達し七日夜來の急行列車は大垣驛にて立往生し東海道線は交通杜絶の有樣にて目下多數の人夫を急派し除雪中なるも北陸、信越各線共雪激しく七日夜來益々甚だし（大阪特電）

援護列車雪中に埋沒す

北陸、信越、岩越各線の大雪

積雪益々猛威を振ひ北陸、信越、岩越の各線の交通に一大支障を生じ列車至る處にて埋沒し各驛は旅客の爲め焚出を爲し援護車又埋沒し其の援護車が埋沒し更らに援護車を繰出す騷ぎにて高岡地方は積雪屋根よりも高し、中越線も日々一千餘名の人夫にて除雪に努めつゝあり（大阪特電）

斷水中の火災 消防手二名負傷

一月七日午後十時三十分頃京城仁寺洞百七十三番地下宿屋營業路炳祿方より出火當夜は消防隊員等驅けつけしも折柄斷水中にて手が附けられず火は忽ち隣家にも延燒するに至り消防隊にては已むなく驅出し喞筒にて僅かに井戸水を注ぎて消火に努め一方類燒家屋を壞して辛くも延燒を防ぎ九間を全燒し三間を半燒して同十一時二十分頃鎭火せり損害約三千圓原因は溫突の破れ目より延燒したるものにて消防の際消防手崔順哲は左手無名指に裂傷を負ひ八日旭町島崎醫院に入院せしが負傷せし指は切斷して加療の筈なり、尙一名も指に輕傷を負へり

京仁の寒氣

平年よりも八度六低し元日以來殊に激しい寒氣が迫つた仁川觀測所の調べに依ると一番寒い日は元日で最低氷點下十四度四と云ふ寒さで八日の最低仁川は十三度四午前六時の溫度で十三度平年に比すると八度六低、である之は支那大陸方面に七百七十八粍と云ふ高氣壓が固定して居る爲めで本日邊りは聊か弱くなつた模樣があるので或ひは寒氣は幾らか薄らぐかも知れぬと、仁川港内では干潮時に結氷したなぞは昨年の流氷以外珍らしい寒氣である

船員十一名燒死す

露義勇艦火災

露國義勇艦隊所屬汽船アストラハン號（二千七百噸）は四日朝烏港に於て火災を起し船員十一名燒死せる奇怪なる噂あり（浦鹽特電）

練習艦隊出港

仁川碇泊中の練習艦隊磐手淺間の二艦は九日午前八時半拔錨鎭海へ向け航行すべし

安東の出初式

安東民團消防隊は恒例に依り八日午前九時より警務署後庭に集合し式を擧行せり先づ古藤署長の檢閲あり訓示ありたる後器具の檢閲あり終つて一同安東神社に參拜の上解散せり

グワテマラ市 市街全滅

中米グワテマラ市は再度の震災にて市街殆ど全滅多數の死傷者を出せり（桑港電報）

朝鮮汽船膠沙

朝鮮郵船會社麗水線の汽船統營丸は去る三日午前十一時釜山出帆麗水に向ふ途中同日午後一時頃加德島燈臺附近にて前方を橫切りし漁船を避けんとして海岸の岩石に衝突したる結果船首を破損し航海危險となりたるに付直ちに釜山へ引返し七日入渠の爲め下關に向ひたるが旅客等には何等損害なかりしと右の爲め同社にては代船として宗信丸を就航せしめたるに同船は往航の途中七日午前五時半頃船津入口の鎭地附近にて膠沙したるも之亦旅客は艀船にて何等損害なく同日午後の滿潮時に浮き上り直ちに目的地へ向け續航したりと

居直の橫領

大和町田熊酒店の雇人原籍滋賀縣加茂郡武佐村太田宇一郎（二八）は昨年暮より主人の金約二百五十圓を橫領費消したる事此頃に至り發覺しかけたるより數日前密かに逃走を企てたるを早くも主人及び大和町警察署に看破され七日大和町警察署に引致され目下取調を受け居れり

八日の朝 零下廿度五分

今冬に入りて最も寒かりし日は去る三日にして同日の最低氣溫氷點下二十一度八（華氏七度）を示せしが夫に次ぐ寒氣の甚だしかりしは八日の最低氣溫攝氏氷點下二十度五（華氏四度九）なりと

諸設備も滯りなく

御著までには完成＝石造殿の修理

李王職に於ては王世子の御歸鮮に充らるべき德壽宮石造殿の修理を取急ぎ來る十二日までには全部の裝飾を終了する筈なるが主殿課技員の談を聞くに同殿は階上に王殿下用及び妃殿下用並びに近侍諸員用の浴場三箇所と洗面所も三個所あることゝて水道の鉛管は總て壁の間に廻らしあり隨つて昨今の如き寒威嚴烈なる候は右水道は冷たき壁の中にて全部凍結し居るを以て之を溫むる爲め九日よりスチイームを焚き詰めて鉛管内の氷を溶かす等其の外に其の設備に手間取りたるも世子殿下御著までには一切の準備を終る豫定なりと云へり而して李王職にては左の職員を御滯在中德壽宮に派して一切の御接待に當らしむる由

◇庶務係（宿直及御接待）事務官武藤文吾（主任）事務官李恒九、贊侍玄百運、趙東源、朴胄彬、淺井魁一、山本登喜太郎、外屬官十、雇員六、給仕三、膳手九名

◇主殿係　事務官田中遷（主任）事務官韓相鶴、技師金倫求、屬官三、技手二、雇員五、傭人一、仕丁二、仕員八、工夫二、火夫一、給仕一

◇會計係　事務官工藤左右一（主任）事務官尹世鏞、屬官六、雇員二、傭人一、自動車運轉手、外取者馬丁若干

◇祭祀係（御告祭）事務官金東完（主任）事務官李源昇、典祀申圭善、屬官三、典祀補二、守僕八、仕丁四

八日とも

今年の年賀郵便に現はれた特殊の現象は往復ハガキを用ゐた事だ▲それは素より商店から出したので往片に賀正の文字を書き更に自家商店扱ひの商品や其の値段を記ため▲精々勉強するから何か一つ御註文をと云ふ事になつてゐる▲そして復片で豫め先方から何か註文を受けやうと云ふ譯で年賀郵便を廣告に利用したものだ▲それから今年は元日匆々より大雪だつたので廻禮者は餘程年より減り▲其の反對に京城市中でやりとりした年賀郵便は著しく殖へたとは某當局の談▲京城府尹の本田常吉氏は和歌に堪能だが、年賀狀に海邊の松と題し三十一文字に『和山のはらなみちの末も風なきて、のどかに見ゆるいそのまつばら』と一首を附してゐる

下關期米

▲八日後場（續、押目買旺盛）

[illegible]

▲八日後場

當限寄付	二十三圓七十錢
中限寄付	二十三圓六十二錢
先限寄付	二十三圓五十八錢

[illegible]

に大阪止めの小高き報を入れ先五十三錢と頗る強硬の成行きを呈せり

後場　當限一節二十圓ノ五錢三錢　節十五錢六錢七錢八錢二十錢十八錢九錢五錢平均値段十九錢四錢　先限一節二十圓七錢八錢二十錢十八錢五錢　節十六錢七錢八錢　[illegible]

仁川期米

八日の三月限

寄付	二十圓四十八錢
後場	二十圓五十三錢
止値	二十圓五十四錢
高値	二十圓四十七錢

天氣

晴れ

（八日午後六時より九日午後六時迄）

一月九日　[illegible]

[illegible]

商況

東京期米特電

七日前場　[illegible]

兵庫期米

七日前場　二十三圓　[illegible]

深川正米特電

[illegible]

大阪株式特電

[illegible]

大阪三品特電

八日前場寄付　一月限　二月限　三月限　四月限　五月限　六月限　[illegible]

大阪期米特電

[illegible]

下關期米特電

[illegible]

雜報

[illegible]

支那粟産地

[illegible]

六圓五十五錢[illegible]

買人の態度

益々緊張したる相場の前途に望み多からしむ [illegible]

鮮人向織物

[illegible]

十一圓八十錢に[illegible]一杯採算[illegible]

市中取引意外の活氣を帶び

[illegible]

三圓一の三

相場引締り色物

百四五圓の取引 [illegible]

頗る強硬の成行き

生果類不活潑

[illegible]

綿糸布又奔騰

米棉四十五錢高 [illegible]

方奔騰し現物綿布龍レ一九龍は共に十一圓二十五錢、三銘先物十一圓四十五錢、跡更に高値樣 [illegible]

内地織物氣配

[illegible]

絹布類、屑糸品拂底に益々好み、縮緬毛斯綸 [illegible]

軍隊入札米

[illegible]

下關相場

[illegible]

仁川正米

[illegible]

仁川期米

[illegible]

八日前場（強硬）

兵庫二十一錢東京九十錢 [illegible]

八日の前場 大阪と三百四十丁内外の鞘 十丁内外迄縮少 [illegible]

兵庫二十三 [illegible]

各地商況

釜山（七日穀物）[illegible]

京城正米

[illegible]

京城雜穀

[illegible]

南大門の廻穀

[illegible]

仁川取引所

八日の三月限 [illegible]

株式會社仁川米豆取引所仲買人 [illegible]

◎定期米穀賣買委託 [illegible]

◎前金御注文は [illegible]

仁川 [illegible]

電話長 [illegible]

●帝國勢力圏内の 最前線長春城（上）
日露戰爭が生んだ新しい都會

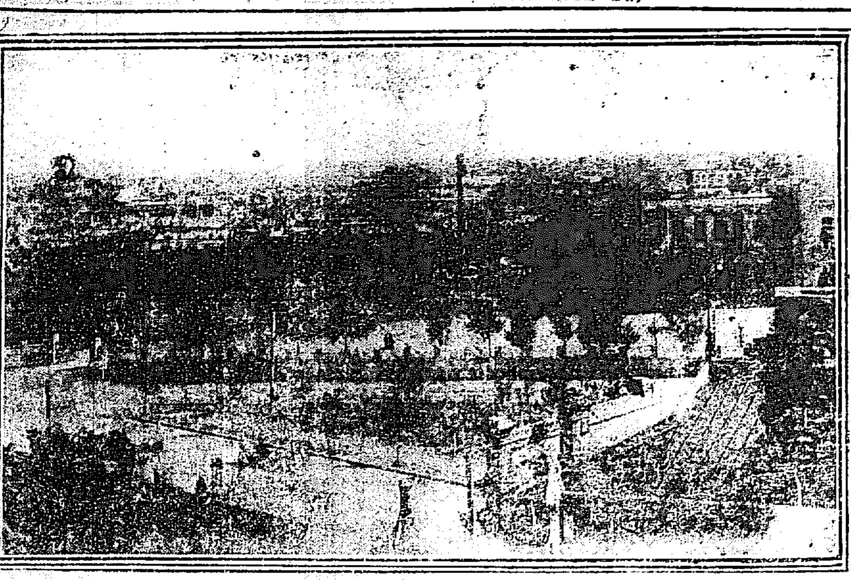
日露の戰後帝國の勢力が朝鮮半島を越ねて滿洲に迄伸びたと云ふ今日では知らぬ者はないだらう、然しそれはほんの隣壁に斷て居る許りで實際如何なる土地であるかを云ふ大略の輪廓でも知て居る者は稀であるといふのも事實である、我に昨年僕が朝鮮に旅行した時京城の相當な商人が尋て來ての質問か『實は長春に一度旅行したく思うて居るが汽車中は大丈夫でしようか』と斯樣だ、また旅館の女中に『どうだ長春に來ないか』と戲れて見ると『戲戲じやありません長春の樣な寒いそうして恐ろしい馬賊とか云ふ者に殺される所へ行つてなりますものか』これだ。

▲滿洲と朝鮮 とは鴨綠江と云ふ細帶の樣な江を隔てゝ居る丈けで京城から長春に來るには僅に一晝夜しか要せない而も旅館の樣な常に各地を往復する旅客の出入繁多な家にある者ですら之である、多くの人が長春とさへ云へば財狼や虎が白晝横行して居たり馬賊と云ふ人か獸類か性の知れぬ者が矢鱈と人命を斷つたりして冬には火も氷結する樣な土地であらう位にしか考へて居ないのではないだらうか、余輩が茲に光輝ある大正七年の新春を迎ふるに際し陳腐の樣だが長春紹介を試むる微意は實に茲に存するのである。

▲非常な恐怖 の眼を以て迎へて居る長春には八十幾歲の老人も暮して居れば可憐なる幼兒が水滑遊戲に嬉々として成長しても居る、此處にも春夏秋冬があつて云ひ知れぬ温い樂しみもあるのである、却說これから御紹介にかゝるのだが抑も長春は南滿鐵道線路の最北端に位し北すれば東支鐵道によりて哈爾賓に至り東すれば吉長鐵道によりて吉林に向ふ即ち北滿の咽喉と云ふ地形に在るのである、緯度から云ふと東經百二十五度九分北緯四十八度四十八分恰も母國の北海道旭川と略ぼ同じ位置に居る、只寒さが旭川に比し少しく激しいと云ふ丈けで然も家屋內の設備が完全して居るから北國の樣な嚴寒中でも各家庭では桃や

▲櫻の花盛り だ、長春は云はずと知れた日露戰爭が生んだ新たな都會で日露支三國が勢力の接衝地點だ、長春城の古い歷史の記宗は別問題だが今尚曾て露古の一部であつた事實を遡して今でも郭爾羅斯前旗の王が勢力を持續してゐることは世人の知る處である明治卅八年彼のポッスマス條約によりて日露の勢力圏を此の長春で分岐した結果は我が滿鐵では一小驛にすぎなかつた此の地に日露の聯絡驛を造り新に市街を建設すべく附屬地を經營し始めたのは今を去る事十二年前即ち明治三十九年の昔であつた、實に滿鐵は土地買收費から市街の建造費其の他公共建設等に就て今日迄

▲數百萬圓の 金を此の長春に注いだのである、其の結果は戸數日本人で一千百九十五戸、人口では男子が二千三百九十三女一千七百八十八、朝鮮人が十六戸で九十名、支那人が一千二百八十八戸で一萬五百四十三名、露西亞其の他の外人が五十三戸二百五十一名合計戸數が二千五百五十二戸人口一萬五千六十五名と云ふ市街が斯くて滿鐵の附屬地即ち新市街の總坪數が一百五十二萬八千八十五坪と云ふ廣大な地域を有し電燈も水道もある學校もあれば病院もある、公園には春を待ちて杏花や桃花が其の妍姿を競ふ今日のわが長春市をなしたのである、



長春の市街

◇朝鮮隨一の 平南鐵鑛

歐洲戰亂に續いて起れる船腹の不足米鐵禁輸は痛切に我國鐵の自給自作を叫ばしむるに至り今や朝野其の聲を聞かざるなきに至れり產鐵事業の國家問題として僞かなる調査と研究を要するは何人と雖も異議なき處なり我平南は全鮮隨一の鐵產地たると共に其鑛區數の如きも最多にして大正五年末百九十七鑛區七千八百九十九萬坪に達せり而して

▲鐵鑛數は金鑛に 次ぎ鑛區三十四面積千三百九萬四千坪を算し鑛主は何れも內地人なるが价川郡に於ける三井鑛業株式會社の鑛業權に屬する九百四十九萬六千三百三坪最大面積を占め江西价川に分散せる鎭二浦三菱製鐵所所有五鑛區百九十五萬千二百五十一坪以下庶生明治の兩鐵業會社等是れに續けり而して

▲同年中鐵鑛產額 三萬五千三百九十九噸價格七萬八十五圓に上れり是れを前年の一萬五千百十六噸價格三萬二百三十二圓に比せば二萬二百八十三噸價格四萬二千七百六十五圓の增加を示せり產額の大部分は价川三井鑛山採鑛に屬し全部を本溪湖製鐵所に輸送しつゝあり其結果鎭南浦經由輸移出鑛量は九百七十八噸價格千百五十六圓の少量を示せり由之觀之本道鐵鑛界の其大多數は

▲未だ試掘の時代 なるを以て何如何を論ずるの程度に進捗し居らざるものと見るを得可きなり更らに鐵鑛區數面積の現狀を見るに大同郡一鑛區三十一萬九千七百二十坪中和郡三鑛區二百二十二萬六千四百九十四坪龍岡郡三鑛區五十二萬三千五百九坪順川郡一鑛區四十五萬二千九百六十坪成川郡六鑛區二百九十一萬八千八七坪安州郡一鑛區二十一萬三千七百二十七坪价川郡十七鑛區千二十二萬七千八百七十七坪總計三十二鑛區千六百八十七萬三千九十四坪に上り

▲尚新發見出願中 に屬せるもの數件を算し前途多々益々增加の趨勢にあるなり鑛量に就いては未だ確たる調査をなせるものあらざるも某專門家の測算に依れば一億五千萬噸を下らざるべしと稱されつゝあり明年を待つて鎭二浦製鐵所作業開始と共に其產額は一層增大するに至るべきは既定の事實なるも鑛質に至つては殷山站等に比し稍遜色多きも製鍊の結果品位を高からしむること左程難事にあらずと云へば今後に於ける平南鐵鑛界は矚望に値するもの多かるべし（平壤）

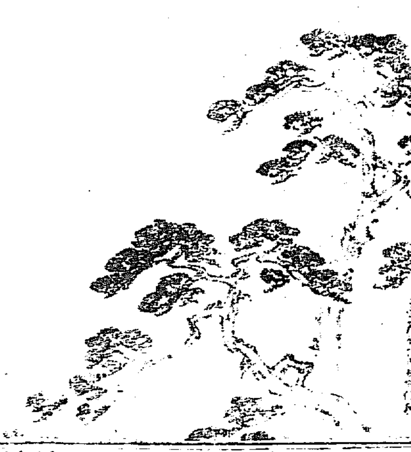
◎鴨江材の前途 有望なる支那輸出

時局以前に於ける鴨綠江材の前途は北海道材其他諸材に壓迫され殆どの如く有望ならず前途頗る危惧されありしが其原因は朝鮮に於ける製材事業の幼稚なるに反し北海道材の如きは山元の安價なるに加へて大規模なる製材と共に運賃低廉なりし關係より遙か支那市場に鴨綠江材と輸贏を爭ふに至り居りしなり然るに時局發生以來船腹不足に依る運賃昂騰は

▲支那輸出上多大 の障害を來せるに反し內地木材界は需要增し稀なる殷賑を呈し來り從來ら減退せり其結果鴨綠江材は倪竹の如きに北海道材の支那輸出は落しく勢を持つて支那市場に奔出し今や牢固なる地盤を占むるに至れるなり從來支那輸出に腐心し內地需要を等閑に附し居たる北海道製材業者は意外なる內地の需要夥多に

▲大規模なる內地 移出を企てたり爲めに山元に於ける價格は暴騰に狂騰を重ね戰前の十倍に達し尚も無限なる內地需要と共に昂騰の趨勢にあるより北海道廳にても從來行ひ來れる隨意契約を改め競爭入札に附することゝなれり是れが爲め山元にては尺〆二圓內外を唱へ加之に製紙界の筆頭たる王子、富士の如き製紙會社をして其年期持山よりする

▲製紙原料の拂底 を訴へしめ更らに民林の買收に著手せしむるに至れるより彌が上に昂騰を重ね前途運賃高と共に到底支那輸出を復活する能はざるの盛況を呈せり其間に處して鴨綠江材は支那輸出上優越せる地歩を獲得せると現時內地に於て最も品不足を感じ居れる船舶用材土木橋梁材建築材等の長尺物を多數製出せるより鴨綠江材の獨占壇場たらんとしつゝあるのみならず又內地に於ても需要を喚起するに至れり而して支那輸出材としては原木の積卸しに多數の時日を要するに反し取扱の輕易なる製材殊も歡迎されつゝあれば鴨綠江材の前途に洋々春の如き感ありと新義州なる某氏は語れり（平壤）



海邊松　子爵藤原爲守氏筆

◎營口開河中炭況

遼河の解氷と結氷とに支配せらるゝ營口の輸出入は石炭も同じく其の影響を受け所謂開河中に取引せらるゝ事甚大なり開河中即ち四月より十一月に至る本年度內の營口輸出炭は一萬三千五百八十三噸にして前年より四萬六千五百五十噸を減じ其の仕向地は閩口二千三百三十噸上海一萬四千五十噸池州七百三十噸なり又焚料炭の輸入高は一萬五千四百六十三噸半にて前年度より四千九百八十一噸の減少を示せり而して此等輸出炭及び焚料炭の合計は撫順炭二萬九千四十六噸にて前年より實に四萬六千六百七十八噸の減少を示し該年輸入ありし本溪湖炭及牛心臺炭は本年は全く市場に現出せずして終れり

◎立山と奉天

本春來滿鐵鞍山鐵鑛開始以來立山は一躍して內外の注視する處となり同地に來住する者踵を接し頗る大景氣を呈せるが元と同所の鐵鑛業は之れを內地八幡製鐵所等に讓るべき時は同所は全部日本人なるに反し鞍山鐵鑛の多くは支那人本位なるを以て邦人發展の餘地少なく之れに反して奉天は將來發展の餘地洋々として已に本年大發展を遂げたるが昨今奉天に對する世の人氣は更に一層旺盛を極め目下新市街方面有望の地所は悉く契約濟となり來春に於ける奉天建築界等は益々殷賑を來たす可き模樣なり

◎長哈間馬車 盛業

從來長春哈爾賓間の貨物は東淸鐵道によりて輸送されて居たるが近時哈爾賓の秩序紊亂の結果東鐵の輸送力大減少を來たし爲めに堆貨山積し商家の不便尠からざるより各商店は何れも馬車輸送を開始したるが結氷の際とて馬車の運行甚だ便利なるより近來該兩地間の馬車輸送は頗る繁盛を極め居れり

大阪株式商況　八日前場　後場

大阪期米

▲八日保合 大阪前止め小安く後寄小高き入電にて當地は當二十圓八五錢中十錢先四十八錢と寄付跡當中二十錢迄跳上げ先五十毫に上り波瀾重畳裡……

▲中限二十圓十錢二錢三四錢三錢……平均值段十二錢二節十二錢三……

仁川米豆取引所

生徒募集廣告
京城醫學專門學校
大正七年四月本校へ入學セシムヘキ生徒ヲ募集ス詳細ハ大正六年十二月二十六日ヨリ五日間ノ朝鮮總督府官報ヲ參照スヘシ
大正七年一月七日ヨリ三日間

てんかん
病で時々ヒキツケ困る方切手二錢送れ永年の病も自宅でナヲス本の書たゞになる本を無代で送る
名古屋市中區南小川町　救生館

謹賀新年
京城精肉商組合

釜山商店案內
月刊商報呈送仕候
雜貨問屋
釜山大广町
本店
電話三四八・振替京城一〇七

米穀調製器 收穫用器具 販賣
釜山本町 朝鮮勸農商會
竹製消火器 南鮮發賣元（地方特約店募集）

長岡商店

大南海堂
藥種賣藥 醫療器械 卸商
釜山辨天町 大黑南海堂
電話三一七・同長四七番・振替京城四五六番

銘酒 オノエ
各地販賣店
朝鮮代理店 釜山 田島

洋酒 罐詰 卸商
釜山長手通
あづまや商店
振替京城三九番

大正七年國民年鑑
恒例の新刊製本出來近日發賣
四六版八百頁 定價金六拾五錢
我が國民年鑑は今や事實に於て日本唯一の年鑑として何者も企及し得ざる力を有す內容の豐富統計の精確……
發行所 民友社
朝鮮發賣所 京城日報社代理部
取次所 大阪屋號 巖松堂 ウツボヤ書店

日本唯一の年鑑に於ける見るを！

日本で初めて出來た
化學應用 水晶紙
硝子代用 鉱力紙品
◎本品の特長◎
絶對に濕氣を防ぎ水晶の如く無色透明にして耐熱耐水の特長あれば總べて濕氣を受け易き物品を包裝して安全殊に價格は鉱力の廿分の一硝子の十分の一にして鉱力、硝子、セルロイドの代用として絕好の發明品也
本品は完全……
東京本町 東洋水晶紙製造所

新荷着
懷中時計

イングレッソー商會
京城本町二丁目 電話九七二番

米國旅行中に付年首缺禮仕候
大正七年元旦
朝鮮製糖株式會社
常務取締役 伊吹震

醇良無双清酒
衛生無害品質無双
醸造元 福岡縣城島町 首藤合名會社
發賣元 京城府黃金町二丁目 首藤京城支店 電話長一七一番
釜山幸町 首藤釜山支店 電話長三四三番

朝鮮銀行
當銀行ハ預金、貸附、爲替等一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候
京城
電話……
支店 東京、大阪、神戶、平壤、仁川、元山、大邱、釜山、鎭南浦、群山、木浦、馬山、羅南、會寧、新義州、安東縣、奉天、大連、青島、長春、開原、四平街、旅順、遼陽、鐵嶺、吉林、哈爾賓、營口
出張所 傅家甸、龍井村
右ノ外內外主要ノ地ニ爲替取引先有之候

木下茂儀昨臘より病氣中の處藥石効なく本日午後五時死去仕候間生前辱知諸士に御通知申上候
大正七年一月五日
青陽郡山 兄 木下一枝
妻 同 酉子

左甚五郎

第百三十二席

桃川如燕口演
浪上義三郎速記

岩本昆雅は下繪を持つて我家へ歸つて参り、右の下繪を手本として、欅の板を前に置いて彫始めた、風に竹に虎といふのでありますから、虎を彫つてそれより竹を彫りますのですが、名人になると、下繪ばかりを目的にはしない、又自分の考へもあるので、竹を彫るのを何う間違へたか松の木を彫つてしまひました、出來上つて昆雅は驚き 昆『オヤ〳〵大變なことをした、竹を間違へて松の木を彫つてしまつたが、折角拵へたものを彫直すのも大變だ、何うにか誤魔めてしまはう』……

寅といふのがございませう』和『ある』昆『甲寅だから、木の方が理屈に會つて居りませう、竹の虎の寅といふのはございません 和『然それも宜からう彫賃は幾何だ 昆『私の方から幾何とは申しません相當の代をお拂ひなすつて 和『うか』と和尚さんが二百文の鳥目を出して 和『さア彫賃を遣るから持つて行け 昆『冗談しちやア叶けません、十日もかゝつた彫上げたものを二百とは何だ 和『貴様暦を知て居るか 昆『へエ』和『暦の中に二百十日といふことがある 十日

ほふと、それを弟子に擔がせまして龍鬪寺へ持つて参り 昆『ヘエ和尚様今日は 和『オヤ昆雅、もう出來たのかね、大層早かつた 昆『恰度十日目でございますが、此方様故早く仕揚げて持つて参つたので 和『それは大きに御苦勞であつた定めし能く出來たらう鳥渡拜見をしよう』其處へ取出したのを和尚は見て 和『昆雅、能く出來た、虎なぞは宛然活て居る様だ』昆『自分ながら此の虎は能く出來たと思ひます』和『ウム、オイ昆雅、俺の方の注文は風竹に虎といふのであるが是は松の木ではないか』昆『ヘエ 和『ヘエじやアない、竹に虎といふはあるが松の木に虎といふのは聞いたことが無い、間違へたのだらう』昆『間違へたのではございません故意と松の木を彫つて來たので 和『何で』昆『大小柱暦の中に甲

といふから二百で澤山だ、持つて歸れ』昆雅は怒つて突如本堂へ飛込み暴れ出して手當り次第に花立机の類を投出すから和尚は驚き 和『コレ〳〵昆雅暴れては叶ん 昆『片端から打毀してしまふ 和『何故暴れるのだ 昆『二百十日の大暴風雨だ』と云ふから和尚は笑ひ出して相當の代價を與へたといふ、憾ういふ面白い人でございます、此の昆雅は金銀の類にも彫物をいたしますので、井伊掃部頭のお屋敷へ折々召されまする、掃部頭が昆雅に對ひ 掃『昆雅、予の小柄を一ツ彫つてくれイ 昆『畏り奉ります 掃『小柄に昆雅といふ銘を入れず

して一目して、あゝ昆雅が彫つたのだなと判る様な物を彫つてくれイ 昆『ヘイ』と云つて御前を退りましたが、さア昆雅心配で堪らない、一と目見て昆雅と判るものと云ふのは何を彫つたら宜からう種々工夫をして見たが何うしても考へがつきません、流石の昆雅も弱つてしまつた、此の人が馴染で毎度廓の俵屋といふ遊女屋へ遊びに参りますが、今夜も相變らず俵屋へ來て馴染の遊女と酒酌交し藝妓幇間なぞを揚げて騒いで居る、此の人は婦人に似合はない平素黒紋附の羽織を被て居たといふ、禿が昆雅に對ひ 禿『先生の名は可笑な名ですね』昆『何で可笑な名だ 禿『だつてコンカンなぞと、狐が鉦を叩いて居る様ですね』と聞いて昆雅、盃を投出して 昆『出來た――』と云つて駆出したから傍に居た者は驚いて ○『先生何が出來ました』昆『何でも宜い、お前達の知つたことでは無ね、有難い、出來た〳〵』と喜んで飛出してしまつた

新築落成
京城明治町二丁目
入院隨意
□□病院
院主 佐々木杏造
電話一六五九番

桃色縮緬
京染呉服商店 まきや出張
京城永樂町 電話一九六〇

一月十日 旧十一月廿七日 丁巳 九星
九紫 ……

模範 牛乳
ニウソ 石鹸洗粉
主 肥塚正太
京城蓬莱町四丁目
東亞牧場
電話五二番

M印 ゴムマリ
大阪唐物町四丁目 飯田商店

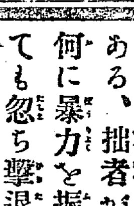
縄機
成績立證 一年五割拂 販賣店には代金は一年回割有利特約 其他籾米機製莚機も特製中
至急照會あれ 現品に圖入營業案内進呈
製造元 大阪大正橋西 帝農商會

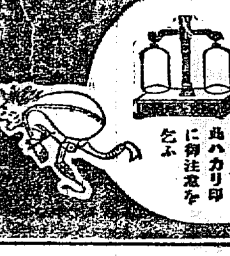
演藝案内

壽座 東京 ……
黄金館 電話二三六三七 ……
壽館 京本町 電話一〇五〇 ……
浪花館 明治町二丁目 電話二六〇番 ……
有樂館 ……
稻荷座 本町五丁目 男女合同 市川團之助一座 浪花節身振芝居 ……
大正館 櫻井町 電話八七三 ……

サック
品質優秀 衛生防毒 特製十個四十錢 上製十個廿錢 ……
東京北品川町百五十四番地 日新舘製劑部

月やく 通經劑 おろし
流經散 ……
東京北品川町百五十四番 日新舘製劑部

見よ〳〵見よ！
偉大なる發明の力

新案特許 意匠登録 紅白御進物最適
世界的名聲を得たる最新發明品『田中式安産いわた帶』の効力で……
定價 …… 田中商店

拙者は
かぜの神である、年中あらゆる人間の油斷をのみ覗ふてゐる、而も今は拙者の最も得意の時候だから、ドシ〳〵肺炎や窒扶斯の種を蒔て苦しめてやる、其中酷く侮る奴は容赦なく殺して了ふ、然しハカリ印のヘブリン丸は拙者唯一の強敵である、拙者が如何に暴力を振ても忽ち撃退されて了ふ。實にハカリ印のヘブリン丸には流石の拙者も兜を脱がざるを得ないのである。

ハカリ印に御注意を乞ふ
本舗 大阪 合資會社 參天堂藥房

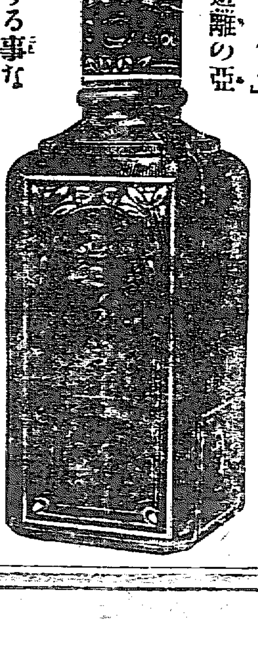
最上醬油
朝鮮仁川港
高杉醬油釀造場

新田帶革
白神洋行 ……
定價表進呈

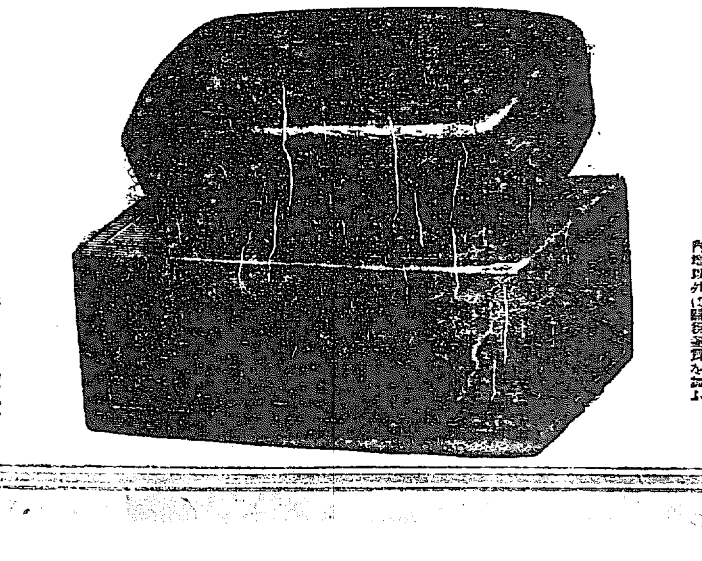
アナタの胃病にはマーゲン
本劑の特色
……
畑田藥房

ミツワ石鹸

純正の石鹸は亞爾箇保兒に透明に溶解し、遊離脂肪なきが故に混濁する事なく、混合物なきが故に些の沈渣をも殘留せず更に「フエノールフタレイン」を以て、仔細に遊離の亞爾加里を驗するも毫末の反應を呈する事なき、是を化學上の純石鹸なりとす。皮脂の分泌量多くして而かも粗糙なる本邦人の皮膚、及び漆黒を貴ぶ毛髪の洗滌に用ふべき化粧用石鹸は、啻に化學上の純石鹸たるの故のみを以て其適否を論ずべからず。


ミツワ水石鹸 定價 大壜 金五十錢 小壜 金二十五錢 内地以外は關税運賃を加ふ

○ミツワ石鹸は化學上の純石鹸たるのみならず、尚左の性狀を具備す
一、原料を精選し、脂肪に香料に、苟も刺戟を感ずべき虞あるものを用ひず。
一、温雅の芳香を有す。
一、細き泡沫を生じ、適度の溶解性を備へて能く水にも溶解し而かも浴室に用ひて、半途に溶け崩るゝが如き憂なし。
故に一般の家庭に於ける、浴室、化粧用として、衛生に適し、經濟に合する理想的實用石鹸なり。



▼賣捌―全國到る處の化粧品店。小間物店。藥舗。洋酒食料品店

ミツワ石鹸
ミツワ椿油
ミツワ家庭藥
規那鐵葡萄酒
肝油ドロツプス
發賣元
東京市日本橋區橋町四丁目 藥劑、藥品、石鹸、香粧品、小間物問屋
登録商標 丸見屋商店

京城日報

九日朝刊（朝夕刊併せて八頁）

本紙定價　廣告料金

發行所　京城太平通一丁目　京城日報社

大阪株式日報　八日前場　大阪米…　東京株式　大阪株式　一七九八〇

▲八日後場　大阪前止め小安く後寄小締め入電にて當限は當二十圓九十九錢…先限四十八錢に寄付後…

戰國の新年を迎へ帝國の天職を論ず（五）

日本帝國の參戰目的と其の天職

日本帝國が聯合國に左袒し、參戰するに至りたる所以のものは、日英同盟に基きたるが如しと雖も、日英同盟の條文以上、至高至大なる帝國本來の天職に基きたることを知らざる可からず。帝國本來の天職とは、何ぞや。曰く、東邦の平和を確保して以て世界の平和と文明とに貢獻するの任務、即ち是れ也。帝國の天職にして果して東邦の平和を確保するに在る以上は、現戰局に對する戰鬪の努力も戰後に對する用意も亦東邦の平和を確保するに在ることを知らざる可からず。我が帝國が參戰の初めに於て、一擧して青島を攻略し、再擧して南洋諸島を占領し、東洋に於ける獨逸の根據地を殲滅し、獨逸勢力を驅逐し戰禍をして東邦に波及せしめざりしもの、此の目的を達せむが爲めのみ。日英協同の結果、我が帝國が獨力を以て太平洋方面を警備し、支那海、南洋、濠洲、印度洋の保安に任じ、更に進みて艦艇を地中海に送り、聯合國の艦隊と共に協同作戰に從事する所以のものは、此の目的を達せむが爲めのみ。中央亞細亞以東、印度と云ひ、支那と云ひ、東邦の局面平和を保持しつゝある所以のものは、我が帝國の武裝に由るや、言ふを俟たず。若し我が帝國の武裝にして、一たび缺陷を生ぜむ乎、支那は勿論、印度も亦動亂相踵ぐに至らむも未だ知る可からず。東邦の平和は、一日も保持すること能はざる也。是れ實に今日に於て、我が帝國の武裝を集中し、結束し置くの必要を感ずる所以にして、歐洲出兵の參戰目的と相副はざる所以也。苟も我が帝國にして、其の武裝を集中し、結束し之を分割せしめざる以上は、支那、印度の動亂を生ずることあるとも、我は之を彈壓するに足るべく。西比利地方紛擾するも、將た露獨提携の結果、露獨の勢力東邦に逆入することありとするも、我は之を攘ぐに餘りあるべく、深く恐るゝに足らざるべし。要は、我が帝國國民たるものは、帝國の内外を問はず、六千萬衆、一身一家を賭して、帝國の天職を諭し、歐洲大戰に對する目的を貫徹し、東邦の平和と世界の平和とに貢獻するに在るのみ。

大正七年の戰局は、露國の潰裂と云ひ、伊國の大敗と云ひ、聯合國に取りて、最大危機に瀕しつゝある重大なる時也。國際的局面の變化朝夕を測る可からざる時也。隨つて我が平和が東邦の平和に對する任務の益々重きを加ふる時也。我が國民たるものは、一心同體、帝國の任務の益々重きを加ふると同時に、至高至大なる天職を自覺し、參戰の目的を貫徹し、帝國の世界に對する使命を完うするに努力せざる可からず。吾人は、戰國の新年を迎へて、寶祚の無窮と國運の隆昌とを祝すると同時に、我が帝國々民が益々自己の天職の重大なるを自覺し邦家の爲め努力されんことを祈らざるを得ず（完）

民間說話界に於ける馬（四）

田中雪人

要するに平安時代は馬の時代ではなく先づ牛の時代からいふと牛こそ却てふさはしい、同時代には馬の說話は比較的尠くて、牛の說話の方が多い世相から觀ても馬は性に合はない。一體馬の字義は說文にも怒也武也とあり、又午旋の午の字は、陰陽相交るといふ義形に由來してゐるので、勢の最も旺んなる意義があり、方角からも陽の極の正南に配されてゐる、又牛は猛烈り、俯して之れを愛するものとして、陰性のものと見られる。丑といふ字も萌芽屈紐して未だ出でざるの義で、陰性である。方角からも殆ど陰の極に近いところの北にある。即ち牛と馬とは正對の性相に見られうるが、之れを時代に當嵌めれば平安朝は牛の性で、馬が引込むのが當然だ。櫻かざして風流娛樂に悠々と日を送りつゝ、實に暇あり大宮人長い袖の下には、何時も迅速無常の世を

平安朝の氣分に合つて居る。葵の上の車爭ひ、天神記の三兒も、牛を眞中に挾んでこそうつりが好い平安朝の悠長な平和な舞臺の幕が切つて落されると、今度は前とは打つて變つた、緊張しきつた場面が開展される。生死を賭して輸贏を爭ふ源平の修羅場である。甲冑武者が物の具に身を固めて、鍔ぜり切結んでは火花を散らし血飛沫を飛ばす時代となつた。そこで馬は自然に缺くべからざるものになつた。武夫の誇りは、先づ華かなる甲冑鎧刀の裝して、逞り切つたる逸物に鞭打たせ、英姿颯爽あたりを拂ふ樣な、人に見らるゝこ

武内桂舟畫伯筆

…良傷の影を宿してゐる。其處にある。されば此時代を物語る…宿に眠つて活氣の拔けた身を物語る記錄には、物の具の繪など目も…りに拔つてゐる樣に、いかにもあやに寫出され、それに配する點…陰性な牛の姿に似てゐる。又當時ので色を較の作りなども、いかに…は佛教の隆んな時であつた。而して…映りよく…[illegible]

扶桑新詩

戊午新年　冷灰　江木　衷

二萬○一千○有餘○日○天容○長物○剩閑○身○
頑恩○叩縱○辣悧○放○我意○新之○春亦○新○

警堂曰、萬物與我皆故、春、是易言哉、司空圖曰、但逢詩往、若手成春、如逢花開、如瞻歲新、亦此之謂乎。

海南　邊松

無○復○驗人○媚聖○時○千章○萬句○謾乘○撥○
請○看○潮勢○蹴天○處○奇傲○岸頭○松一○枝○

警堂曰、前半從白居易新樂府來、後半寓意奇峭、潮聲撼歐洲、翠喻歐洲也。

戊午新年　樟川　木下成太郎

金○戈○鐵馬○奈天○驕○滿地○殺氣○何日○銷○
獨○有○神皇○垂大○統○巢然○宇宙○御蒼○標○

警堂曰、皇統連綿、金甌無缺、庶以冠絕宇內。

どうして（三十四）

布施生譯

言て仕舞ふと國栖は傍を向て一息つきながら何だか肩が輕うなつたやうな氣持がした。然し探偵長は別の考へがあると見ね小聲で「容貌の…形で色白の黑眼鏡か、い男だ……もつと……保存がよければなあ」國栖は耐らず探偵長の手を引張つて、『探偵長、だつて君とか…一…何度の話に違ひ…

御…の妹の髮の毛は、黑かつたそうぢやありませんか、處が之は、此通り赤い』言ふ内不圖其水死人の顏を見ると國栖はあつと驚いた『やこりや過日三坂通りで武烈氏が何か話をしかけたあの娘だ……さう／＼衣服の裂端を拾つて置いたつけ』國栖は急がしく紙入の口をあけて先達て拾つて置いた裂地を取出し屍體の衣服と引合はせて見た。地も模樣もさては色合まで紛ひない一つ物であつた。

探偵長は其世話よく死體を檢べて居たが此時何か重苦しい物で擲つた痕かと思はれる額と兩腮との痕に眼をとめながら『そうかい上

しく、鬼に角之がどうした女だか武烈氏に聞けばまさか知らないとは言へないわけだな。それは可いが此女一體やられたのかな、自分で身投したのかな。獨言ともなく言切ると今度は港內巡視に向ひ『どうですまだ以外に慘い目に會つたやうな形跡はありませんか』『ありますとも、如何やら暗殺されたらしいですよ』と探偵長は乾きを嚙んで、『怪しからん、それぢや怨恨殺ですな』言ひながら身を翻して碇繫の端の巡邏船に乘ふた其の手は少し慄へてゐた。

探偵長が身を伸ばすと國栖は待構へたやうに顏を見合しながら『兎に角あれは一件とは違ひますよ』『いやまだそう斷言は出來ないやうに思ふがね』。『どうしてです。そうすると花子から聞いた人相書――吾々が搜索の手懸りにしてゐる――あれは一體虛僞なんでしやうか』國栖が執固むのを探偵長は笑顏で受けて背後を見返り例の巡視を喚懸けて『過日鼓の諸君のお手に廻しておいた人相書はどうでしたつけね』『吾はれて巡視は上衣の內衣襞から何か謄寫版に刷つた紙片を取出し探偵長の指圖のまゝに國栖の手に渡した。廣げて見ると『丈高く肉附良けれど瘠形にて黑眼勝、顏容調ひて髮の毛は特殊に艷ありて麻色なる年若き婦人の死體、右懸案等の事無きか御心懸下され度、もし御發見の節は早速下名まで御通報願度候『阪』。

『こりや何の事です』國栖が言ひかけるのを探偵長は袖を引いて默說になり『君、此次何時か武烈氏へ往つて問題の部屋を檢べる機會があつたら、一つ忘れずに簞笥の下を覗いて見給へ、今でも乾度有るだらうと思ふが綸がね一つ落ちてゐて、それに麻色の髮の毛が幾筋か捲付いてゐるよ、それでね君彼處の召使共が其楡の持主の髮の毛が黑かつたなどゝ云ふ處をみれば彼奴等はもう餘程用心したゐるんだぜ。いゝかい分つたかい。

離讀抄（一）

◇動物と懷妊期（面白俱樂部）

人間の懷胎期は二百八十日であるが、象は二ケ年、駱駝は十二ケ月、馬は十一ケ月、牛は九ケ月、鹿は七ケ月、熊は六ケ月、獅子は五ケ月で出産する。尚其他の諸動物の懷胎期を摘記すれば左の如し。

羊（九週間）猫（八週間）豕（四週間）天竺鼠（三週間）猿（九十日より九十五日）家鴨の卵（二十一日）鷲（三十日）鵞鳥の卵（四十二日）孔雀（二十八日）七面鳥（二十八日）カナリヤ（十四日）雉（十四日）

太陽

新年號　大附錄創作六篇

講和の一大問題　M.A.L.M.P. 米田實
△戰時の米國　石井菊次郎子
△支那經濟雜感　堀江法學博士
□現實派と冥想派との戰（時局の印象）　淺田江村
大正七年度豫算評論　濱口雄幸、箕浦勝人
△露西亞は分裂乎亡滅乎　内田魯庵
△粘土自像　與謝野晶子
△露國の背信を戒む　宇治川法學博士
△今年は平和か…　茅原華山
第四十議會の大勢（政界の表裏）　無名隱士
工業動員に對する準備（工務省設立の最大急務）　工學博士子爵 大河內正敏
△馬、競馬、馬券　馬政通
△馬に關する民俗と傳說　南方熊楠
△踊つてから　新名士
△我善坊から　白鳥
戰後世界經濟と日本の最根本問題　法學博士 福田德三
△文學力　杉浦東大講師　米田京大講師
△現代性慾生活　浮田法學博士
□米國大統領の教書を讀む
我國化學工業の趨勢　農商務技師 莊司市太郎

◇遺傳の眼病　田山花袋
◇小說の筋　里見弴
◇土の靈　野村愛正
◇一つのもの　野上彌生子
◇三度目の試驗　北村清六
◇小さきもの　鈴木悅

定價金六十錢　郵稅五錢　東京本町　博文館

新刊　日本一の模範家庭文庫　いよいよ
ロビンソン漂流記
極彩色三色版六、三色凸版四、石版四、寫眞版二、挿畫四十枚　定價一圓　郵稅十二錢

文章の美、挿畫の美、裝幀の美、我がお伽文學界に新らしい時代を作つた富山房の繪入模範家庭文庫も愈々世界に有名なロビンソンクルウオの漂流記を以て六卷の完成を告げました

海の國に育つて冒險好きなロビンソンが少年の時から家を出して卅五年の間絶海の孤島に漂著して…

1 アラビヤンナイト
2 アラビヤンナイト
3 グリムお伽噺
4 イソップ物語
5 アンデルセンお伽噺
6 ロビンソン漂流記

◎裝幀　各卷富山房新型菊判五百頁目のさめるやうな極彩色金模樣近來の美術的出版物として家庭圖書中の女王であります
◎挿畫　各卷二百乃至三百以上、三色版、木版、寫眞版、現代印刷術の粹を極む

可愛らしい御模樣の燒畫　新案意匠の書棚附　全部特價十五圓　各卷定價二圓四十錢
光輝ある新年の贈物には是非華麗にして清新の趣味溢るゝ模範家庭文庫をお選みなさい

東京神田　富山房　振替一〇

經濟界と相場界の快著！大豫言書出づ！
大正七年の財界と物價
法學士 佐藤謙二先生題字　本社調査部編纂
大正七年の諸物價　財界人士の覺悟
有價證券現物賣買及各種信託代辨業
大阪市北區上通三十八番　大阪殖貨社　電話長四二二〇番　振替大阪一五二一四番
定價一圓

最新刊
露西亞に遊びて　大庭柯公著
日記の書き方
少女物語 赤い夢
月並研究
新荷到著
大阪屋號書店

京日案内
普通 一回前金五十錢　番外 一回前金

◎配達人至急募集希望者本人來談あれ但し市內確實な要保證人　龍山漢江通り町田新聞部　電話五二
◎看護婦及見習看護婦至急入用希望者は本人來談ありたし　旭町一丁目　島崎病院
◎藥局生及看護婦並見習看護婦入用希望者來談あれ　仁川府宮町　松本病院
◎寫眞助手及門生至急入用年齢二十歲以下市內に保證人を要す　京城武橋町　電話一八二　菊田寫眞館
古本と古樂器高價買受
右都合有之解雇致候也　森代書事務所　川村三郎
◎鑛山測量及製圖　水利測量設計其他　京城大正館向横通　測量社
事務員急入用
◎鑛物各種分析　田部分析所
◎鑛物各種分析所　松永分析所
◎礦物定量分析　坂元分析所
◎はねつき　うらみ
柔術道場　明治町

○東清露兵全部解散

▽支那兵愈々露兵に代る

八日より哈爾賓長春間東清鐵道の沿線守備兵は全部解散し代るに支那兵を以て守備する事となり寛城子の守備露兵は今や輿地に向け輸送中なり支那兵は先に吉林督軍の募集せる新兵の教育終りたるものを以て充つる事となり武器の交付を終り四五日以前より長春に集中し居れるを以て九日頃より露兵の兵營に入り守備の任に就く事となれる爲め支那官憲は頗る多忙を極めつゝあり(長春特電)

▲露都過激派政府は哈爾賓寛城子間の鐵道守備隊を全隊撤退歸還せしむる事となり寛城子よりは七日迄に百名を出發せしめたり其の代りとして支那兵配備に就けり(哈爾賓電報)

○リウチン等浦鹽に赴く

▽形勢益々不穩

浦鹽の各國領事は[illegible]最後の協議を遂げたりチタとの電報不通となれるがバイカル湖到る所衝突發せるもの如し浦鹽の勞兵一個師團は勞兵會の全支配に屬しつゝあり哈爾賓を脱出したる勞兵會員リウチン其他は浦鹽に赴けり(哈爾賓電報)

○イ市穩和派服從

イルクーツクにては過激派敗北し穩和派の支配に歸したるがクラスノヤルスクの過激派は之れを悦ばずして同市の行政權が讓與せざれば砲撃を開始す可しと威嚇し穩和派も已む無く之に服從したる旨五日附同地日本人會長より哈爾賓佐藤總領事へ報告あり(哈爾賓電報)

○段氏の派兵意見

段參戰督辦は歐洲參戰勅法意見書を總統に提出せり其要領は軍器は精鋭なるを要するを以て日本より購入す、軍費は國家の對面上外債に依る可からずと云ふにあり派兵に關する佛國側との交渉は日々進捗しつゝあり(北京特電)

○王總長李純勸說

王財政總長は元旦家事に托して南下し李純を訪ひ北方派に同意せしめんとすと傳へらる(北京電報)

○北方講和に決定す

馮總統王總理の兩氏は南北和議に關する全權を李純氏に委ね南京に於て南方と和議を講ぜしむることに決定せり(北京特電)

○南北妥協愈絶望

國會問題にて南北妥協全く絶望となれり馮國璋氏は和議の全權を李純に委任せんとしたるが李氏は舊國會恢復を前提となすに非ざれば和議至難なりとし李氏の仲裁も絶望となれり(北京特電)

○廣東平靜に歸す

廣東平靜に歸し秩序漸次恢復しつゝあり(上海電報)

○過激派政府承認乎

獨逸の僞善的講和畫制は露國過激派の反抗を促がし此傾向は軈て聯合國をして過激派政府を事實上の政府として承認するに至らしめんとするの形勢あり(倫敦電報)

○露憲法議會形勢

露國憲法議會は來る十月八日にして若し議員定數に達せば同日開會するに至るべしと

○獨東方部隊叛亂

獨逸東方面部隊に屬する二萬五千の兵員叛亂をなし當局は之が鎮撫に窮しつゝあり[illegible]

○滬銀重役

總裁以下任命

七日日支合辦滬[illegible]銀行の重役左の如く任命されたり(東京特電)

總裁　陸宗輿
專務理事　柿内常次郎
理事　木村雄次　山成喬六　小野榮二郎　張弧
幹事　早川千吉郎　[illegible]　敏　小田切[illegible]

○柿内理事發期

勝田藏相別宴

七日柿内常次郎氏は滬[illegible]銀行專務理事に任命せられたるが氏は八日午後東京發北京に赴任するを以て勝田藏相は八日永田町官邸に於て柿内氏送別の午餐會を開き各銀行業者を招待せり(東京特電)

○米棉百圓臺破

八日大阪入電に依れば米價高騰度は五十錢高にて米相は四十[illegible]百圓臺を突破せり(大阪特電)

○吉林の貨庫

[illegible]

○改野渭[illegible]

[illegible]八日午後九時五[illegible]に向け歸任せり(京城電)

○昨年中の朝鮮鐵道(中)

▽南滿統一經營に

[illegible]

○滿洲に一大會社新設

日中實業公司―資本金三百萬圓―東拓の補助機關

[illegible]

▽昨年九月當[illegible]

▽本線改築に伴ふ

[illegible]

○釜山水産成績

[illegible]

○學校長打合會

京城府内各學校長は八日午後總督府學務局に參集し李王世子殿下御來京に關する打合會を開きたり

人事消息

[illegible]

○客月京城貿易

[illegible]

○貨車竣工

[illegible]

○日滿聯絡運賃改正

[illegible]

○農林會社計畫

[illegible]

財界管見(二)

大阪支局より

我國は多額の債務を外國に負ひ而して更らに債權を有せざりしも今や却て債權を有するに至れり此の如き形勢は今後尚ほ繼續すべきや如何、若し繼續にして變化すべくば我經濟界も亦た茲に變化すべきものなりとす其變遷は容易に豫想し得べからざるも過去の異動變遷の原因を知るは又た將來の變遷を豫測するの方法の一なりとす故に之れが原因を探究するを要す我貿易に影響すべき原因は多々あるべしと雖も戰局の平和を以て最も大なるものと爲し而して平和條約の條件亦た大なる變化の因子なりとす若し戰局にして尚ほ繼續するものとせば列國貿易政策の爲め輸出入品の禁示解除又け關稅率の異動其各國の航行法例、食料品規程、其他[illegible]

他の政略は一々我貿易に影響し一々我經濟界を動搖すべき原因たらざるは無し[illegible]

▽外貿易總額

[illegible]

▽貿易高増加内容

[illegible]

◎內地新春金融

▲歲末放出資金

[illegible]

▲各銀行状況

[illegible]

▲金融方策實行

[illegible]

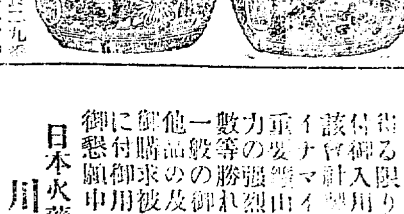
百面百種

[illegible]

藤本竹香氏元旦試刀　文曰　[illegible]

寫眞　京城日報社

醇良清酒　醸造發賣元　大阪府堺市　鳥井家源次郎　特約販賣店　京城本町一丁目　佐藤安太郎



時計貴金屬指輪眼鏡商　京城本町二丁目　三浦天龍堂

防寒靴　毛皮なめし　京城黄金町三丁目　大阪屋

靜岡　丸互漆器店

至急店員入用　三巴支店

朝鮮彙報　一月號

謹賀新年　日本火藥製造株式會社製品販賣所　川口屋林銃砲火藥店

最新刊　日本研學協會編纂　京城日報代理部

◎ケ氏議員に當選

於憲法議會議員に當選せり（露都電報）ケレンスキー氏はサラトフ縣に

れば今後續々回收せらる可く新春の金融市場は再び横溢の狀態に轉ずべきが如然れども金融市場は今や世界大戰の影響を受け非常の變遷を來せる折柄なれば單に資金回収の當然要望せりと雖も同日は歳末決濟尻の繰越されたる爲め市場を依然緊張せしめたるものにして今後の關係の消滅すると共に資金は銀行の

△資金需要方面 は如何と云ふに先づ格別顯著なる變動を起すべき原因を有せざるもの、如し第一に事業界を見るに新設擴張も上らんも窮めて新規の資金を吸收するに足るは明かなり勢及ぶ之に要する資金の需要は當然漸次增加すべきも銀行會社の配當期に當ることゝて全に後回一の狀況を持續すべからざる如きも金融の緩漫なるに至れば長期コールの如くにして全得ざる結果貿易出超の好況前年の對外放資及び公債の應募等の如く漸次困難となり政府は金融の狀態に應じ海外放資及び公債の應募を

銀行間の意志疏通するに至れば…々の變化を及ぼすことなる

◎饑ゑと寒さに疲れ果てゝ　瀕死の人々救ふべく

◇救世軍「道」の爲めに活動す◇

京城西大門外平洞救世軍士官學校では昨年十二月中旬頃からの嚴寒に窮民貧民の饑死者凍死者が續出するので、この七日からフレンチ大佐指揮の下に此等憐れむべき窮民救助に一臂の力を添ふ事となり、毎朝士官を派出して［illegible］

◇◆頃日來 の寒風が暗に、身をおく小屋もなければ一粒の食さへもなし、數日に亙りての飢れと腦みのために、路上に打倒れてゐる者があつたので救助隊は直にこれを施救所へ連れ込み先づ冷へた身體を暖めた上温かい食を與へた、彼は涎を垂らし〳〵啜行り寄り疲勞し切つたるなかにも眞に蘇生したかの如く喜んで『早速食に有付かうとする途端タラ〳〵と

◇◆鼻血を流し、たゞ焦慮りに焦慮るばかりで容易に食事する事も出來ぬ有樣、そこで士官が側に進みよつて手づから彼れの口に食を入れてやり漸く食事せしめ救助してゐるのである

たが何んと云ふ痛ましい事であらう、又之れにも劣らぬ悲慘事は可憐なる三人の小兒が見るもいぢらしき小屋に可愛さうにも死んでゐたのを救助隊が發見したことである、此子等は［illegible］

◇◆死別れ 父は縄にぞ出て行つたまゝ歸らぬので取るに一粒の食なくまして身を暖むべき薪炭もないと云ふ慘じめさ、母は［illegible］父の跡りを待て侘びつゝある中次第に餓は募り乳飲り同胞重なりあふて倒れて居たものを救助隊は之を發見するや否や連れ戻り先づ温かく沐浴をさせ、温かき食事を攝らせた處漸く元氣を回復し施與されし食餌と薪を抱へ喜び勇んで元の小屋に引取たと云ふ

この外報げ來たれば斯んな事はいくらもあるが、要するに寄る辺なき孤の捨て小舟、この寒空に飢と疲れと惱みとに打倒れるなどは人生悲慘の極とも云ふべく、救世軍は進んで「道」の爲めに救助しつゝあるのである

▽頭を飯鉢に突込んで

◇無心に食べる小兒の群◇

廿一日の救助人員は五十八

窮民救助を斷行して居る救世軍、八日は早朝から士官十名を市内各方面に派して飢に堪へぬもの、極度の營養不良に陷つてゐるものなど五十名丈け探し出して『救世軍』では困つて居る人の爲めに

◇◆食物を與へる温飯は今日午後三時より西大門外平洞救世軍士官學校に於て此等持參者に限り無料で與へる」と書いた切符を渡した、其時刻になると襤褸を纏ふたものや不具者などがゾロ〳〵と集つて來て暖爐が暖く焚かれてある士官學校の階下の一室で大飯

◆救世軍本營に於いて飢人窮民に温飯を施與す

◇◆腹一杯 に詰込んで元氣よくなつた者は多少働けるものは僅かに元氣で薪割などをして居た、フレンチ大佐、校長石島大尉の兩氏は斯うした人々の手を取て一々食卓に着せて居たが五ツ六ツの小兒の群が飢も隱れやうな飯鉢に頭を突込んで無心に喰べて居る姿を眺めて眼を潤ませて居た

▽石島大尉曰く

『一同は七日から向ふ一個月間の豫定で［illegible］飢死を免れしめる事にしましたが、［illegible］毎日五十人を定めてありますが集つて來るものゝ中には瀕死のものもありました温突一間に七八人も折重つて寢て居たものもありました

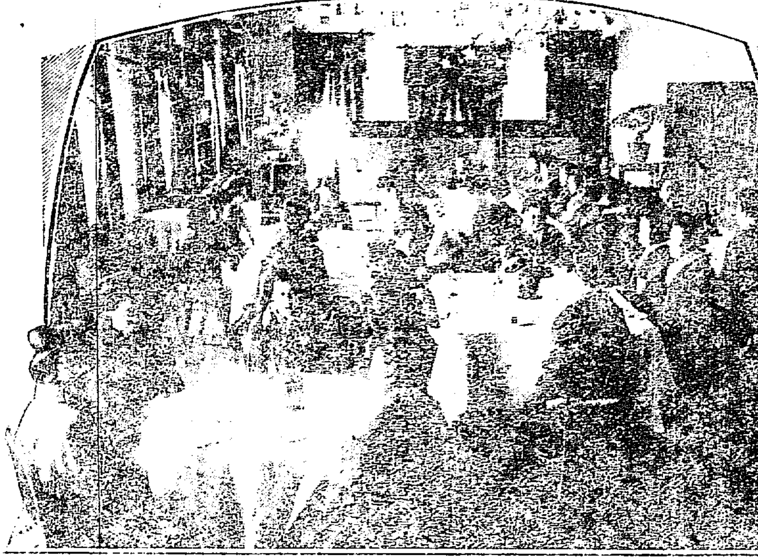
◇◆婦人は 流石に優しいもので自分は飢ゑを忍んで背の小兒に喰はせて居りますが見て居る我々は思はずホロリとされます』

◎歡びを盡して

愛婦の新年宴

愛國婦人會朝鮮本部にては八日午後一時より南山町京城ホテルに於て新年宴會を催したるが定刻開會大橋幹事の開會の挨拶ありそれについで大正六年の事業報告、決算報告等ありて一時午食堂を開き、然して食事終るや竹本奈良梅の義太夫、浪花節出演中の落語家等の餘興あり、新年宴會の事とて出席者非常に多く午後四時過ぎ歡を盡して散會したり當日の出席者左の如し

岩本［illegible］、［illegible］、中村いゑ子、［illegible］、京口貞子、山田多子、［illegible］、矢野鬼代美子、國分［illegible］子、［illegible］



愛國婦人會の新年宴會

◎巨大の虎と豹を斃す

全北地方に於ては昨今頃滿山白雪皚々として猛獸の餌乏しき爲め時々狼は所在に人家を襲ひ犬豚雞等を拉去咬殺する爲め［illegible］黄海道海州邑狩獵家［illegible］は一ヶ月以前より長淵郡山中に入込み狩［illegible］

◎偽造小切手で清酒を騙る

［illegible］福島縣［illegible］八女郡大塚町生れ松崎［illegible］右兩名は共謀して［illegible］手先に使ひ釜山西町一丁目金貸業川島牧造の名義を用ひ額面四百圓十八銀行支拂ひの僞造の小切手を振り出し一日四日朝貸水町三丁目竹鶴酒造場より清酒二十八挺を三百三十九圓餘にて買ひ受くる風にて見せ掛けて內六挺を騙取し松本松崎の兩名は目下釜山署に引致取調べ中なり

禪林の正月（二）

雜煮の自慢

禪堂は何れも坐禪辨道をして居る所謂僧參の士で三年位經過したもの中古の連中と新入ホヤ〳〵の初年兵とによつて組が別れて居る。之を高單、中單、末單と云つて居る。高單は末單に對して古參振を發揮せねばならず、末單は正月だからとて心は許されぬ。そこになると横着なのは中單である。齋坐と云つて雜飯が濟むと早や外出の支度をして居る。

『おい禪兒、元日から雜事（外出のこと）でもないぢやないか、坊主が新年早々から出歩くと人が厭がるせ止せ〳〵』『馬鹿言へ坊主だつて人間だ、元日から外出

となつて生きた人間を濟度するのは我龍雲衲ではないか、此の戰國の士が土饅五臟の果下駄を履いて大正七年元旦から巡錫ばずと云ふ、こんな有難い事が又とあらう恐らく一休和尚が髑髏を持つて年頭を廻つたよりも振つて居る筈だ。須らく大正七年の歴史に特筆す可きことゝ思ふ』

［illegible］氣婦革靴も宜るべからざるの快事もある。木綿の破れ衣に素足の腰上げ高き中肉中脊の凛々しき姿で街道を濶歩して居るとこ

『おや禪さん元日から何處へ…』『足にまかせて』『坊さんが法衣を著て元日から出歩くと人が厭がりますよ、素式に著て行く法衣など著て止し玉へ〳〵』『うむ、貴公は生れることは知つて居るが死ぬとは知らないね、道理で死と云ふことを嫌がる者は早く死ぬものだ、おい貴公の著て居る著物は北の町某家の葬式に著て行つて居つたものぢやないか、其りや取換へて行かなけりや人が厭がりますよ、失敬ッ！』

自用車などで横柄に物言ふ紳士に禪僧獨特の棒喝を喫はして赤面させることもある。富豪の家を訪れて榮華の夢を貪つて虚榮に滿てる有樣を見ると情なくソロモン王の榮華も百合の一花に如かなかつたと物質の糧むに足らぬことを諄々として道破することもある而かも禪坊主の胸中は毎も光風霽月、酒々落々平氣なもので知人の家と云ふ家を片つ端から訪問する一風異つた快男子もある。開板の他のものが外出の所得は如何になど問ふものがあると『なあーに向上の一路千聖共に行くさ』と嘯いて居る。

◎東京は二十九年以來の酷寒

利根川も凍結す

東京は八日朝零度下八度一分を示し二十九年以來の酷寒なり同日朝利根川は零下二度の寒氣にて氷結せり（東京電報）

◎花よめ花むこ

新郎本間德雄氏（二七）は東京帝國大學工科大學の出身にして總督府土木局技師たり新婦［illegible］子（二一）は［illegible］の令女にして大正六年京城高等女學校出身の才媛なり五日朝鮮ホテルに於て［illegible］兩氏夫妻の媒酌により華燭の典を擧げたり（［illegible］）

◎淺ましい女心

原籍福岡縣［illegible］町小林徳三郎妻［illegible］當時忠北［illegible］憲兵分隊勤務［illegible］曹長某の妻よし（［illegible］）は五歳の［illegible］二人の子女さへある身なるに女の虚榮に憧がれ昨臘廿四日夫の［illegible］三丁目の同僚河村方の留守宅に忍び込み婦人用御召衣類三點價格五十圓を窃取したるを逸早く［illegible］の知する所となり引致取調べの結果［illegible］

◎仁川の猩紅熱

七日仁川外里白［illegible］徳三郎二女田鶴（二）は猩紅熱に罹り同日寺町病院に收容せられたり原因系統不明なるも家族全部は隔離せられたり

◎山陰四國大雪

山陰地方も大雪にて四國も降雪甚しく列車積雪中にあるあり交通杜絶せりと（大阪特電）

◎仁川港內結氷

七日朝來の嚴寒にて仁川港內干潮時の結氷甚だしく帆船の航行杜絶し滿潮時を待つにあらざれば汽艇迄の運絡不可能の爲め本船との航行は午前中杜絶の姿にあり［illegible］

かぜねつに 一番よくきく キナピリン
◎キナピリンは◎感冒◎インフルエンザ◎マラリヤ◎リウマチス［illegible］
本舗 高橋盛大堂藥局　發賣元 高橋盛大堂出張所
◎各地到る處の藥店に販賣す

百圓 りん病 ばいどく（はい毒） 帝國醫科大學院 にせ物にご注意 大阪有田ドラッグ商會
京城南大門外停留場通 大ドラッグ商會滿鮮本部
他の藥店に販賣を不許

寶 田村質店

男の生殖器 ［illegible］ 製造元 富安本店

六千圓 債券（賞付） 天神橋 朝日債券株式會社

和洋金物商 ◎鐵瓶◎ストーブ◎魔法瓶◎中瓶取替 京城本町三丁目 佐藤牛次郎商店

銚子港 田中玄蕃醸造 ヒゲタ醤油 代理店 京城明治町一丁目 櫻正宗 山邑京城支店

資本金 參百萬圓 當銀行ハ預金、貸金、爲替等ノ一般銀行業務ヲ確實親切ニ取扱申候 株式會社 漢城銀行 京城府南大門通四丁目 頭取 李允用 支店所在地 水原、平壤、大田、開城、南大門 出張所所在地 鍾路、東大門

櫻御殿

第百十五回　大阪　霞の家主人

編笠浪人(九)

主膳は編笠を被つて居る、優しい蠟色鞘の兩刀が月に照つて、鐺を引きながら歩むたびに、銀作りがきら〳〵輝く。

『さあ、どうかお上り下さいまし。まことに取り散らけてございますが、それに御覧の通りの茅屋で、あなた方をお泊め申す程のお座敷もございません』と桐島は世話に砕ける。同情に堪へかねて、伴れては戻つたが、成るべくなら素性を知られまいとする用心も加はつた。

『御雜作を掛けて濟まぬ、お恕しを下され』と主膳は門口で編笠を脱ぎ捨てる、皓々たる月が雪よりも白い半面を照らして、淋しい秋の家の門が俄に春めいたようになる。桐島は大きな鐵槌で胸を撃たれた如く感じた、よろ〳〵と倒れかけて危く樹の幹に身を支へる

『お嬢樣、御免遊ばされ』

供の宗之助は斯う挨拶して、主膳と共に裡へ入る、豆よりも小さい燈灯が破れた壁の前に照る。室の中には酒の香がまだ殘つて居る、右衛門の飲み續けて居た盃や徳利が狼藉してある、主從は面を見合せて、坐る處もない破れ疊の上に坐る。

桐島は自分で胸を押へながら、[illegible]き足して裡を窺つた、主膳は灯火の前に坐つて居る、年紀は十九か二十か、女にしても見まほしい

目許、口許、それに眉根の優しさは、さながら三日月を懸けたようで、花の唇に旅の疲勞の現はれたるが、銀桃に嬌の被つたように見ゆる

『何といふお優しいお方であらう』と桐島はつく〴〵思ふ。と、異しい程に胸が騒ぐ、自分にはさうしようと思ふ心もなくして、兩手が自然に髪へ行く、三日も五日も櫛の歯を入れたことのない髪がばら〳〵と亂れて來る

『何故髪を上げて置かなんだぞ、今日は何故髪を上げて置かなんだぞ』と自分を叱るように云つて、門口の水溜に面をうつして見などする、裡から宗之助が立ち出で

『御雜作の上に、御雜作を掛けて濟みませぬが、旦那も手前も、まだ夕飯を致し申さぬ、恐れながら少々お米をお貸し下さらぬか、これで粥にても炊きたく心得るが』と、拔ないように云つた

桐島は『はい』と肚胸を突く、米櫃に一粒の米も無い、斯うした時が、心の眞の見せどころであるから、早速出して、自分の手で温く炊いて進らせたいと思ふ、けれどそれも甲斐が無い、眞赤になつて

『これにはございません、お待ち遊ばしまし、一走りに行つて參ります』と前後の考へも無く云つた

『重ね〴〵、お手數を掛けて恐れ入るが、では御雜作序にお頼み申す、玄米で宜しい、一升か一升五合―』

『はい、むき取つて參ります』

『島目がこれにある、島目を進じようか』と宗之助の云ふをよくも聞かず

『いゝえ、夫には及びません、此方で都合致します』

桐島は云ふ聲より早くだら〳〵坂を馳け降りた、米を商ふ家までは一町ほどもある、その店頭へ來るまでは夢中であつたが、初めて氣がつくと、懷中に一文の貯蓄もない

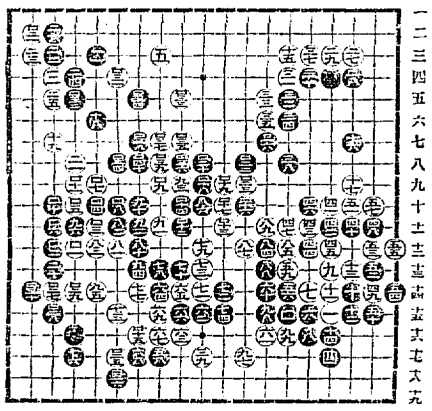
『あゝ』と溜息して背後へ退る、その耳根へ『文の酒すら讓へかねる手で、見ず知らぬ客の爲めに、よくも米を買はうとするな』と叱るような聲がした

碁戰

十番外 第三局の七

三段 山平壽氏　二子 大久保雅彦氏

白ソの二の八より黒リの一廿一百二至(百五十手)迄



日報俳壇

關西蕪吟社詠草(黄海所載)　松田芳宙選

温突

温突に座渦巻ける舞樂哉　竹風
温突に降る木立や神一座　同
夕風に温突を焚く涙かな　七軒
温突に穴を明けたる鼠哉　同
温突の窓に足袋干す女哉　仁川 涙江
温突の烟に咽ぶ小村かな　同
温突に尚ほ生きて居る蠅哉　静月
温突の窓仄かなり雪の朝　方水
温突に臭越の客の欠伸かな　湖畔
温突を烟らす月の山家かな　耶麻

雪

演習の馬が嘶く吹雪かな　森[illegible]
裸木の雪に啼啼鴉かな　竹[illegible]
風止む雪積む音を聴く夜哉　七軒
尾後流る水静さや夜の雪　香[illegible]　湖[illegible]

日報歌壇

◆月夜の氷雨　高須賀 歌

頭から前日浴ぶればしみ〴〵とありがたきかな[illegible]
作晩の雪消ゆれば街は[illegible]の雪はあけたとし
くも鳴り出でにけり
木枯も日を限りにて今ははや[illegible]へわたる月のことなる
もろ〳〵のものゝ光りはあるものを吾れには[illegible]の光る見ゆ
夜のくだち月の光りは照り[illegible]は氷雨さつか降る音
たれこめて酒れば飼り[illegible]外の雨[illegible]かに氷雨降る音
好きな酒[illegible]へて考へつ呑めばさやかに氷雨降る音

背戸に鳴く鵯の雀や今朝の雪　涙江
雪の夜や港に近く鳴る汽笛　同
牛車一臺野路に黒し雪の朝　同

冬木立

近き畷に續く冬木かな　涙江
落葉掻く唄うそ寒き冬木哉　同
冬木立海に盡たる部落哉　同
冬木園ふ三戸の村の温泉哉　七軒
冬木伐る斧の谺や向ふ山　同
鵙の群鳴く土手の冬木かな　静月
巉と立つ敎會堂の冬木かな　耶麻
切り詰めて里一望に冬木哉　湖月
烏の巣の陽はになりぬ冬木立　二七軒
繋がれて豚の泣居る冬木哉　香仙
炭竈の烟が這へる冬木かな　同
屑搭の穴を啄む冬木かな　同

新刊紹介

▲實業界(商工界改題第一號) 實業、節會、小資本者に最新考案と最新智識を紹介せるもの[illegible]
▲現代の闘拔工藝(一月號) 彩色圖案を[illegible]
▲戰友(一月號) 在郷軍人會の機關雜誌にして最も廉價なるもの(七錢東京麹町飯田町二ノ五二帝國在郷軍人會本部)
▲日本魂(三の一) 二十錢東京々橋區三十間堀三ノ七日本魂社
▲一大帝國(一月號) 十六錢東京芝區[illegible]
▲少年(一月號) 十錢東京々橋區[illegible]三ノ一五[illegible]
▲愛知縣商品陳列館報(一二) 名古屋市中區[illegible]愛知縣商品陳列館
▲青年(六ノ一) 二十錢東京[illegible]
▲朝鮮醫學會雜誌(一二) [illegible]
▲天香貿易協會月報(二三) [illegible]
▲時宗評論(一四) 十五錢東京四谷[illegible]三ノ三[illegible]社
▲中央文學(二ノ一) 十五錢東京日本橋通四ノ五春陽堂
▲獨逸語青年(二ノ一) 二十錢東京本郷龍岡町三四[illegible]社
▲帝國青年(三ノ二) 十二錢東京麹町區内幸町一ノ四同發行所
▲新聞便覽(一ノ一四) 五十錢大阪南區日本橋北詰[illegible]社
▲ゆく春(長田幹彦作) 伊藤深水の挿畫美しく、著者獨特の新らしき描寫に成る創作は文學趣味を有する人の讀まざるべからざる好箇の著(九十五錢東京[illegible])
▲國民詩論(第二集) [illegible]の論文[illegible](全部[illegible]錢東京丸の内有樂町[illegible])
▲趣味之友(新年號) 三十錢東京麹町[illegible]町一ノ六〇[illegible]社
▲東方時論(一月號) 三十錢東京麹町[illegible]の二三[illegible]社
▲婦人週報(クリスマス號) 五錢東京麹町[illegible]谷[illegible]町二の一七[illegible]社

下關期米

▲八日後場(銭、押目買旺盛)

東京株式 同新株 [illegible]
二〇四、〇〇　一九七、二〇　二五八、四〇　二三七、四〇　二三八、七〇

▲八日後場
▲當限寄付　二十三圓七十錢
▲中限寄付　二十三圓六十二錢
▲先限寄付　二十三圓五十八錢

に大阪止めの小高き報を入れ先丘十三錢と頗る強硬の成行きを呈せ[illegible]

八日の三月限

後場 寄付 止メ
二十圓四十八錢　二十圓五十三錢　二十圓五十四錢

天氣

晴れ (八日午後六時より九日午後六時迄)

▲一月九日　日出 七時四十九分　日沒 五時三十二分
仁川 滿潮 午前 一時十九分 午後 二時二十三分

桃谷研究試驗所製

美顔水

▲垢ヌケするやうに出來てゐる美顔水!!

垢ヌケの美!!

美しいといふ中にも

垢ヌケした美しいお顔こそ、美しい中の美しさ、最貴の美しさでございます。皆様御各々の御心も、此點には毎も一致して居ります。垢ヌケするやうに出來てゐる化粧水美顔水は、そのため發賣以來御愛用を増してゐるのでございます。

顔が垢ヌケして美しくなる譯はと申しますと、皮膚の新陳代謝と言つて、古くなつてよごれた皮膚を、新しい、美しい皮膚と入代へる作用に依るのでございます。此新陳代謝の作用といふものは、自然に人の皮膚に具はつてゐるものではございますが、併しそれが一層活潑になるやうに仕向ければ、自然の儘に委せて置くよりは、遙かに「垢ヌケ」の効が多い理でございます。美顔水は此「垢ヌケ」の理をよく研究して出來ました化粧水で、その上最近桃谷研究試驗所で發見になりました[illegible]成分を、原料の中に加へて製造するやうになりましてから、一層垢ヌケする力が強くなりましたので、愛用の方々から大變にお喜びを受け、世の皆様の御称讃を得て居ります。

▣白粉のトキ水 として白粉のノリを良くし、白粉に美しい光澤を添へ、最も美しいお化粧の出來ます事は、皆様御承知の通りでございます。

これに▣赤パリ氣細しに荒れを防ぐ といふ珍しい作用がありますため、粘り氣のお嫌ひな方には誠に重寶がられて居ります。尚▣ニキビ、吹出物 には別に「ニキビとり美顔水」がありますから、其れをお勸め致します。

美顔化粧料發賣元　東京 大阪

桃谷順天館

東京市日本橋區本町四丁目　電話本局二六二六・一六二七・二三〇番
東京市麹町區有樂町一丁目　電話新橋二六三九番(試驗部)
大阪市西區南通二丁目　電話土佐堀六四七・六四八番

大阪商船株式會社 汽船出帆廣告

仁川出帆

◎神戸大阪行(釜山寄港) 大智丸 一月十一日 午前四時
△木浦、釜山、嚴原、關ノ浦、長崎行 安東丸 一月十五日 後二時
△安東丸 一月十三日 後二時
◎大連行 安東丸 一月九日 正午
安東丸 一月廿一日 正午
元山出帆
楢浦行 △[illegible]丸 一月[illegible]日 正午
◎西湖津、新浦、城津行 安平丸 一月十一日 後十二時
釜山、[illegible]、宇品、神戸、大阪行 安平丸 一月九日 後九時
◎上海、基隆、打狗行 湖北丸 一月十四日 前六時
基隆丸 一月 日 後四時
内地各港出帆は[illegible]
南米行 一年 四回
濠洲行 毎月 一回
北米行 毎月 二回
孟買行 毎月 二回
南洋行 毎月 一回

御注意 [illegible]

大阪商船株式會社仁川支店
京城支店 電話[illegible]

朝鮮郵船

本社 電話[illegible]
京城南大門通 松原運送店
木浦港 代理店 野口回漕部
仁川港 代理店 郡山回漕部
元山港 [illegible] 元山出張所
釜山港 佐藤町 釜山支店

○關門より釜山名地經由雄基行 但し×印あるは江原道寄港せず

○元山より北鮮各地經由雄基行
稷城丸 一月五日
鏡城丸 一月九日
京畿丸 一月十七日
忠清丸 一月十三日 元山發

第二高運丸 一月十三日
成鏡丸 一月十九日
×京畿丸 一月四日
忠清丸 一月九日 釜山發

○大阪神戸行(釜山門司經由)
平安丸 一月七日 元山發
平安丸 一月九日 釜山發

○元山より釜山經由門司行
第二高運丸 一月廿四日
京畿丸 一月十五日 元山發

○元山より江原道經由釜山門行
成鏡丸 一月十日
忠清丸 一月廿一日 元山發

○鬱陵島行(浦項及名地經由)
看徳丸 一月二日 釜山發

○濟州行(巨文島九龍浦經由)
江陵丸 毎日 釜山發

○濟州島行(長承浦巨文島經由)
昌平丸 一月五日 釜山發

○濟州島行(西廻り八口島、子島經由)
東廻、公州丸 一月二日
西廻、慶興丸 一月八日 木浦發

○釜山、巨濟、統營、濟州
統營丸 濟州丸 毎日 釜山發

○木浦、順天(木浦にて釜山行接續)
順天丸 三日目毎に 木浦發

○木浦より多島名島行
慶興丸 一月三日 木浦發

○仁川鎭南浦行(群山其他名地經由)
晋州丸 一月七日
金海丸 一月二日 仁川發

○仁川鎮南浦行(海州其他名地經由)
宗信丸 一月[illegible]日 仁川發

○海州行(江原道各地經由)
全州丸 毎日
南陽丸 仁川發

○西鮮行(一芝罘「大連航路」)
三十一日休航 一月一日 休航

○江原丸 一月六日 仁川發

○濟州行(大阪神戸門司より)
平壤丸 一月十三日
一月廿一日 元山發 釜山發